



年頭雑感



VEC関西支部の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年4月末～5月初め、安倍総理は日本の首相としては初めてシリコンバレーを訪問し、「シリコンバレーと日本の架け橋プロジェクト」を打ち出しました。安倍政権のベンチャー振興に対する力の入れようが伺えるできごとです。

国や政府機関のベンチャー振興対策はますます充実していますが、その中で特に、JSTとNEDOの最近の動きには注目しています。共通項はオープン・イノベーションです。JSTは「イノベーションハブ構築支援事業」を起ち上げ、JAXAをはじめとした国立研究開発法人を核としたイノベーションハブを形成していこうとしています。JAXAでは、無重力ではない、月や火星といった重力天体における宇宙開発に地上のベンチャーや既存企業の優れた技術を活用していくということです。NEDOは「オープン・イノベーション協議会」を設立し、国内外のオープン・イノベーションの成功事例を共有するためのイベントを開催していくとしています。

大企業とベンチャーのマッチングもますます盛んとなり、昨年10月26～27日にはVECも協賛して「第3回TOKYOイノベーションリーダーズサミット」が開催されました。

年々参加企業数が増え、今回はベンチャー企業489社、大企業111社、当日参加者3～4000名と、一昨年の倍以上のスケールになったということです。

昨年はVEC創立40周年を記念する祝賀会も開催しました。

「ベンチャー白書」においては、CVC、クラウドファンディング、ロボット産業等の最新事情を紹介するとともに、シリコンバレーからの見方の紹介にも重点を置きました。

また、最近の特筆すべき動きとして、ようやくメガバンクがベンチャー投資に目を向け出したということです。これまでは子会社のVC任せにしてきたわけですが、FinTechへの対応も始まり、シードやアーリーは無理としても、それ以後であればFinTech以外の技術系ベンチャーも含め、銀行本体が投融資する体制を整えていくということです。

事業会社ではないのでCVCの範疇からははずれますが、日本の大企業がベンチャーに目を向ける動きがまたひとつ出てきたということで歓迎されます。

一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター
理事長 市川 隆治

～エース証券株式会社 乾社長と VEC本田支部長とのトップ対談～

新春対談としまして、関西に基盤を持つ中堅証券会社のエース証券株式会社 乾社長に、ベンチャー支援や2016年の経済、証券見通しなどについて熱く語っていただきました。

- ・平成26年に創業100周年（大正3年創業）を迎えられた貴社の、企業理念につきましてお聞かせ下さい。
- ＝企業理念(CI)は「お客様の資産運用・財産形成をサポートする『サービスの質』と『満足度』において、日本一のベストカンパニーを築き上げよう」であり、お客様への最高のサービス、総合的な金融サービスのご提供を目指しています。
個人金融資産は約1,700兆円近くあると言われていますが、そのうち株式に係わる投資は10%位であります。これが、例えば、NISAの枠が500万円位になり個人の株式投資が欧米並みの30%位までになれば、配当金収入等の増加などにより個人の所得が増え、消費の増加や経済活性化につながるのではないかと思います。
- ・IPO企業数が本年度は100社が視野に入って参りましたし、株価や経済も期待されています。これからの見通しや関西・大阪の活性化についてお聞かせ下さい。
- ＝世界経済的には、これからも37億人近い消費人口があるアジアの有望は変わらないのではないのでしょうか。そこで日本は、かつて米国が行った多国籍企業化、技術革新、分業化をもっと深めていかなければならないでしょう。関西・大阪もシリコンバレーのような発想が必要で、「なんでや」の気質・精神をさらに活かすべきだと思います。
- ・貴社がベンチャー支援をなされている「KANSAIアントレプレナーズクラブ」についてお聞かせ下さい。

＝当クラブは、関西を拠点とするベンチャー企業に対し、単なる資金提供だけではなく経営やマーケティングなどのアドバイス、人材紹介など様々な面を支援させていただいております。この活動を当社の使命のひとつと考え、ニュービジネスや起業家が多く輩出されることの一助になることを期待しています。これからも地道に支援を継続して行く予定ですが、その結果、関西経済、ひいては日本経済の活性化につながればと願っています。

・中堅の証券会社として、今後のご計画などについてお聞かせ下さい。

＝これからの時代は身近に相談できる、「主治医・弁護士・資産アドバイザー」がさらに必要になってくると思います。証券会社もこれからは変わらねばなりません。私どもは関西圏のみならず証券会社の出店店舗数の少ない地域への出店のため、コンビニエンスストア型機能によるきめ細かいサービスを進めています。そして、現在329の金融商品仲介業者を通じ、各地で地域に密着した対面での資金運用アドバイスをを行っています。これを拡大させるためにも、今後の最重要課題は「お客様満足度」を90%以上に持っていくことでもあります。

・本日は乾社長から貴重なお話を賜わり、改めてそのお人柄や経営の取組み等につきまして理解を深めることができました。今後の貴社益々のご発展と、本年が経済発展や株価上昇となりますことをお祈り申し上げます。



〈乾社長〉



〈乾社長と本田支部長〉

「100年迎えた日本初の日刊工業紙、学生ベンチャーの育成も」

日刊工業新聞は1915（大4）年11月30日、ここ大阪の地で産声を上げました。2015年は創刊100周年の節目の年になります。当初は「金属工業 鉄世界」という名称の月刊誌でした。創業者の近藤義太郎はこの雑誌をベースに1922年6月24日に新聞に移行。わが国初の日刊の工業新聞が誕生しました。創業者は当時30歳代前半。今でいうベンチャー企業のような存在でした。創業者は母校、早稲田大学総長の大隈重信侯のもとを訪れ「わが国の工業を発展させるために役立つ新聞、雑誌を発行して工業立国の信念に奮起せよ」と後押しされたといひます。創業者は年が若いということもあってか、自らは「主幹」という立場にとどめ、社長は外部から大物を招へいしました。初代社長は日本鋼管（現JFEスチール）の創立に関わり、近代製鉄界の開祖とされる今泉嘉一郎博士です。当時の外部執筆者は渋沢栄一子爵、後の満鉄総裁の山本条太郎、後の総理、田中義一陸軍大将、大正デモクラシーの立役者である吉野作造氏など豪華な顔ぶれでした。

日本の工業近代化の一助となってきた日刊工業新聞は、一貫して中小・ベンチャー企業の育成・支援をミッションとしてきました。その一環で学生のビジネスプランを顕彰する事業を立ち上げました。1999年、これも大阪から発足した「キャンパスベンチャーグランプリ」です。摂津信用金庫（現北大阪信用金庫）から「若者に夢を与えるような事業を提案して欲しい」と要請されたのがきっかけです。今でこそ学生ベンチャーを支援する事業は数多く存在していますが、この事業が先鞭をつけたと自負しています。当初は大阪府内にとどまっていたのですが、2001年に九州、2002年に中国地区へと広がり、今では全国8地区で実施。2005年からは全国大会を開催しています。このCVGをステップとして企業を立ち上げた学生も増えていきます。第3回大会でグランプリを獲得した京都大学の高橋智隆さんは「ロボ・ガレージ」を起業し、ロボットクリエイターとして活躍しています。また第3回大阪大会で優秀賞を受賞した大阪大学大学院の安達宏昭さんは受賞をきっかけに「創品」を設立しています。この100年を振り返るとさまざまな出来事がありましたが、中小・ベンチャー企業を支援するという日刊工業新聞社の使命は不変でした。そしてこれからの100年も変わることなく続いていくと信じています。

（注1）日刊工業新聞のルーツである月刊「鉄世界」（注2）キャンパスベンチャーグランプリ全国大会でプレゼンテーションを行なう松江高専の学生ら



（注1）



（注2）

日刊工業新聞社 大阪支社編集局長 嶋崎 直

日本の人事制度は海外で通用するのか？

最近TTPの大筋合意により、政府は日本の中小企業1000社の海外進出を支援すると報道されているが、海外に進出したときに日本の人事制度が果たして海外で通用するのだろうか？日本は歴史的に農耕民族のムラ社会で、地域社会の基本となる家族を大事にしてきたが、企業もその影響をうけ従業員を家族のように庇護し、一方で会社の方針にしたがうよう統制する人事制度が運用されてきた。しかしグローバル化の中でオープンな実力主義を基本にした企業慣習の海外ではこの家族的な人事制度は単純には通用しないことを認識すべきである。

例えば日本では社員を庇護する意味で通勤手当、住宅手当、扶養家族手当などを支払っているが、通勤手当でいえば「遠くから通勤してくれありがとう定期券代ぐらい負担しよう」と支払うが、「同一労働、同一賃金」を原則とすると、遠くから通勤する人は近くに住む人よりよく働くわけではなくナンセンスと考えら海外では通勤手当は支給されず住宅手当、家族手当も同様である。しかし一方で人を大事にする日本の経営は海外で以外と人気があることを大いに認識すべきである。例えば数年前の、アメリカでのトヨタのリコール事件の時にトヨタの工場が進出している各州の知事が、「アメリカの自動車会社はリーマンショックの時は労働者を一斉にレイオフしたが、トヨタは一切レイオフせず労働者を保護してくれた。」とトヨタを支援する声明をだし日本企業のリストラに消極的な美徳をアメリカ社会が評価してくれた好例である。私の経験では現地の経営の成否は、この人を大事にする経営理念を如何に現地に転移しそれを徹底できるかにかかっている。日本企業の経営理念で一番多いのは「人の和」ということで、人の和とは欧米企業のように人を蹴落とす競争社会でなく社員がお互いに協力しながら会社を運営することを目指すもので大変重要であると思う。この「人の和」を大事にして個人プレイよりも組織プレイを大事にする人的社風は日本独特のもので、現地の社員が理解してくれるかどうかである。

いずれにせよ今回の命題である「日本の人事制度は海外で通用するのか？」は進出した海外で現地の社員がこのような日本の経営に共感してくれる本社の経営理念が現地で浸透できるかどうかにかかっている。

太成学院大学 経営学部長 釣島平三郎

<シリーズ>



～おもしろい“色”のおはなし～
「金色」の夢をもって

新年あけましておめでとうございます。

新年早々「色のある」お話ができ大変光栄です。今年は何の様な年になるか大変興味深いですが、過去を振り返るとバブル経済期はお金が世の中を支配しておりそういう時代は「赤・黄・橙」の明るい色が町中に流行し、人間の心理にも「何かできる」という活気ある気分になっていたのでしょうか。しかし、バブルがはじけその後「黒・灰色・白」という色使いに変化しました。それほど「色」は好景気、不景気をみる1つの目安になる働きもあります。

昨年「爆買い」という言葉が流行語にもなりましたが家電量販店、ドラッグストア等で中国人観光客が大量購入されている風景をご覧になられたことがあるでしょう。先般新聞記事で中国人観光客の「爆買い」に最も適して色「色」が「金色」であることが判明し各日本の医薬品メーカーが「通常パッケージ」と「金色パッケージ」と分類し販売したところ、「爆買い」には「金色パッケージ」の売れ行きが伸び率が大きく中国人の方々の購買意欲をより以上にかきたてる働きに一役かっているようです。

元来、中国は「金色・赤色」が縁起がよい色と言われているようでこの結果は「色」の大きな心理作戦が働いていると思います。

日本でもお祝いの席で「金色・赤色」がよく使われており「赤色」は神様を祀る神社の鳥居、めでたい時にいただく赤飯など。何か見ただけでも力強さがあり、なぜかという「赤色」は人間にとって生命力のシンボルといわれ本能の色なのです。また「金色」は「光」「高級」「お金」と輝くイメージがあります。心理でも「金色」を好む人はトップに君臨したいとか上昇志向の方が多い傾向にあります。日本では各企業のパッケージに「高級感」を演出するのに「金色」を少量使っただけでも、より以上の効果のあるパッケージに変わります。我々何気なく見ている商品の「色」も企業にとっては緻密な戦略があるのですね。さて、今年は何の様な「色」の年になるのでしょうか。楽しみです。

色彩心理カウンセラー 濱本 妙子

～VEC関西より～

・明けましておめでとうございます。

1年は連続しているわけだし、新年になったと言っても何ら変わらないはずなのに、家族、会社で新年を祝ううちに何だか新しい年になったような気がします。今年も新しいベンチャーが生まれ、世間が騒ぐでしょうが、こうして世の中が少しづつ変わってゆくのでしょうか。（本田）

・あけましておめでとうございます！

また1歳年を取るというより、1歳若返るという気持ちで今年も頑張ると自分磨きをしたいと思っています。濱本女史の色のおはなし、なるほどなあ～と感心することばかりです。自分磨きの参考にさせていただきます。今年も皆様とVEC交流会等でお会いできる事を楽しみにしております！昨年同様どうぞよろしくお願い申し上げます。（藤本）

・謹んで新年のお祝いを申し上げます

本年も昨年同様ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。今

年の抱負は「ステップアップ」です。昨年まで温めていた事柄等穏やかに進めていき、貢献できればと思います。（濱本）

・2016年がスタートしました！ 本年の干支は申で病や厄が「去る」とも言われるらしいですが、「のびる」や「もうす」という意味もあるそうです。今年にはIPO100社越えや株価上昇も期待されておりますので引き続き明るいテーマに取り組んで行きたいと思ひます。ご協力よろしくお願い致します。（澤村）

<交流会の予定>

新年交流会

平成28年2月9日(火) 近畿大学水産研究所(近大マダロ)

名誉教授 顧問・前所長 村田 修 様

(農学博士)

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



近世の商人の足跡をたどるおもしろさ



我が国の近世において、各地に、世間の流れを確実に読み、独特の感性、独特の商取引により「豪商」と呼ばれるようになった商人が多数存在しました。17世紀前半では初期豪商として「朱印船貿易」「門閥商人」と呼ばれる商人が多数台頭しました。17世紀後半から18世紀前半には、「元禄豪商」が台頭しました。元禄期は、文化、経済とも、江戸時代の最盛期であり、投機型商人（奈良屋茂左衛門・紀伊國屋文左衛門など）、堅実型商人（三井高利・鴻池善右衛門など）が多く排出されました。18世紀前半から19世紀前半においては、幕府や藩に公認された同業者組織である「株仲間」商人が天保の改革まで台頭していました。これら各時代において、色々な商人たちが歩んだ足跡を調べてみると大変興味深く、且つ、現代でも通じる「知恵」「才覚」を見いだすことができます。今回は有名な商人について、少しだけご紹介し、如何に商売を抜けて行ったかを見てみましょう。

「門閥商人」は、戦国時代に権力者に協力した者、および権力者と血縁関係にある商人がその殆どを占めます。大阪で有名なのが淀屋常安（三郎右衛門）です。彼は、大阪夏の陣において、徳川家康の陣地の構築、兵糧の確保などに大活躍し、家康に認められました。豊臣家滅亡後、戦線整理を請け負った膨大な利益を得ました。戦線整理とは戦死者の埋葬だけでなく、戦死者の持ち物などを自由にできる立場です。豊臣側の戦死者から刀、武器、装飾品等を取り外しそれを売って利益を得ました。その後、家康の許可を得て堂島に「米相場先物取引所」を開設しました。先物取引所としては世界初でした。素晴らしい発想です。淀屋は膨大な資金力を背景に全国の各藩に大名貸しを行い、各大名が淀屋に抜き差しならない状況となりました。結局、淀屋は放蕩を理由に1705年に關所になりました。幕府も酷いことをしますね。今ならば、権力の乱用とマスコミに叩かれますが、封建時代であったので仕方が無いことなのでしょう。

「元禄豪商」として台頭したのが、大阪では鴻池善右衛門です。鴻池財閥の祖と言われます。先祖は出雲の尼子氏の家臣でした。初代直文は酒造を開始しました。2代目鴻池善右衛門（正成）は「鴻池屋」を名乗り両替商も拡大し各藩への大名貸しが大幅に増大しました。元禄初期には32の藩に対し貸し付けを行い、江戸末期には鴻池家の資産は銀五万貫（187,500kg）にも達しており、「鴻善ひとたび怒れば天下の諸侯色を失う」とまで言われたそうです。諸大名にとってはまさに「命綱」的存在になり、藩の家老が鴻池屋を訪れても対応するのは番頭だったとの逸話が残っています。しかし、淀屋のように關所にならなかったのは鴻池の世渡りの巧さと誠実な商売のやり方にあったのではないのでしょうか。

「元禄商人」で忘れてはならないのが、伊勢商人の三井高利です。1673年、高利52歳、江戸本町にて呉服店「越後屋」開店。1683年、駿河町に移転し両替店を併置。以後、三井家発展の基礎を築きました。越後屋の商売の方法として、「店前現銀売り」（現金売り）、「現銀掛値無し」（正札、現銀売り）、「小裂（こぎれ）何程にても売ります」（端切れ、少量の販売）、「諸国商人売り」、「即時仕立て」、「番傘貸し」（店名入番傘貸し出し）、「引札」（ちらし配布）等々でした。

それまでの呉服店の商売に無かったアイデアを取り入れ大成功を取ります。店は大変繁盛し文化13年（1816年）の記録によれば京都・大阪・江戸に大店を持ち、手代1000人、1日の売り上げが2000両だったそうです。これは五万石の大名の収入に匹敵したと言われます。才覚の優れた商人の代表と言えます。伊勢商人について、井原西鶴が「日本永代蔵」で「人の気を見て商の上手は此国の人也」と記しています。また、伊勢商人が大挙江戸に進出したため、5代将軍・綱吉の頃には、「江戸に多きもの、伊勢屋、稲荷に犬の糞」という俗語まで登場しました。

面白い経歴を持つ商人もいます。例えば、河村瑞賢です。彼は、南伊勢出身で幕府の命により「東回り航路」「西回り航路」を開設したことで良く知られています。しかし、元々は材木商で財を成した人です。瑞賢は13歳の時、江戸に行き車力をしていましたが、あるとき品川付近の海岸でお盆の精霊送りの瓜や茄子が多数流れているのを発見し、これらを拾い上げ、塩漬にして普請小屋等で販売しかなり利益をあげたとされています。明暦3年（1657）大火（俗に言う振り袖火事）が起きました。瑞賢は手元にあった10両を手にし脱兎の如く木曾へ走り出しました。江戸大火の風評も届かぬうちに木曾にたどりついた彼は、山林王といわれる屋敷に駆けつけ、庭先で遊んでいたその家の子供を見ると、小判3枚を取り出し、小柄で穴を開けこよりを通してガラガラ玩具をこしらえて与えました。子供が貰った小判の玩具に驚いた主人は、瑞賢を余程の分限者（富豪）と思い、後から金を持ってくる番頭を待っているという瑞賢の言を信用し、持ち山すべての材木を売り渡す証文に印を押したそうです。瑞賢が雇った人夫が伐り出してきた材木に「河村」の刻印を打っているところ、ようやく江戸の材木商たちが木曾材の買い付けにだれ込んだ。が、もう遅い。彼らは瑞賢から言い値で高価の材木を買うしかなかったとのこと。材木を商人たちに売却した代金で山林王への支払いを済ませ、残りの大量の材木を江戸に運んだ瑞賢は、他の材木商よりはるかに安い材木を売り出し全て売り尽くして巨利得たといわれています。この話は、かなり脚色がありますが、瑞賢が先見の明があり、少し詐欺っぽい人であることを物語っていますが、航路開拓の際には、非常に緻密な計画と交渉をし、確実な作業を行っています。

日本全国には様々な地方で、様々な商人が活躍しましたが、独特の感性を持ち、独自の商売方法で成功を取っています。これら商人の足跡をたどると、現代に生きる我々にも当てはまる「知恵」が発見できるものと思います。「てんこもり」をお読み頂いています皆様も各地にある商人館、記念館などを訪ね、先人達の足跡をたどってみたいかがでしょうか。おもしろいですよ。

新和商事株式会社
代表取締役社長 森下喜郎

長年ベンチャー支援に情熱を注いでこられた「大野アソシエーツ 大野長八代表」に今までのご活躍や今後の夢などをお聞きしました。引続き関西活性化のためにご尽力されることを期待致しております。

- Q. 今までのベンチャー支援で印象に残っておられる内容についてお教え下さい。
- A. 「社会を良くしたい（もっと豊かにしたい）」「中小企業を大企業にしたい（雇用を増やしたい）」の想いで、第1次ベンチャーブームの1974年、経営コンサルタント会社N社（京都）に入社しました。2000社近く、経営相談しましたが数社を除き大企業に飛躍をしようとする経営者が現れませんでした。そこで第2次ベンチャーブームの1986年、関連会社V社（東京）を設立しました。そして1995年東証ジャスダックに上場いたしました。V社の経営理念は「企業家養成学校」でした。理論と実践（訓練）を行う中で多くのベンチャー企業群を成功に導きました。「サンマルク」「ガリバー」「牛角」「高田屋」「銀の皿」など10社がIPOいたしました。1社2億～4億円を投資、ビジネスモデルもほとんどV社が「高収益モデル」に作り上げました。急成長のためにはV社のメンバーは不眠不休で働きました。1995年から2012年の17年間で応援しIPO企業10社で約50,000人の職場を作ったといわれました。私自身は50歳役員定年のため1996年常務で退任いたしました。V社の卒業生からは「ゴルフパートナー」「FアンドM」「ガイアックス」など8人がIPOいたしました。また、あのぬいぐるみの「ふなっしー君」も卒業生です。
- Q. 以前と比べサポートの支援側と支援を受ける側について何かコメントはございますか。
- A. 関西は「五代友厚」「小林一三」「松下幸之助」など企業家を輩出しました。関西を元気にするには今こそ、「企業家精神」の普及のため、小学校から大学まで「関西の企業家・偉人伝」の教科書を独自で作成し教育カリキュラムに取り入れるべきだと思います。その精神を引き継ぐ企業群に会社訪問を行いその役員より「創業者の想い」を語っていただくと良いと思います。関西の大企業こそ、ベンチャー支援、投資も含め人材の応援、有能な社員を幹部予備軍の訓練の場としてベンチャー企業へ派遣をしていただきたい。
- Q. IPOも年間100社が視野に入ってきたが、関西の件数が増加するには何が必要でしょうか。
- A. 関西には電気産業が集積しているため、電気関係の技術者が多くおられます。例えば成長が見込まれる「電気自動車」の分野も視野に入ると良いのでは。また、住宅・生活分野ももっと改良が加えられても良いのではと思います。住宅家電のみならず、住宅部材の共同研究・全国共通の建築資材・共通部材化が進めば、大幅なコストダウンにより高品質で安価な住宅を供給できると思います。IPOのネタは関西だからできるものがまだまだあると思います。
- Q. 今後のご計画や夢についてお教え下さい。
- A. 現在、「大阪市IAG委員」「関西ベンチャー学会常任理事」をさせていただき、「志の高い企業家予備軍」を時間の許す限り応援をさせていただいています。特にビジネスモデルの改善、事業計画の改善、ベンチャーキャピタルへの訪問、新規販路開拓のための大企業への訪問など、ステップバイステップで進めています。また、多くの人にベンチャー企業への応援できるように、勉強会、交流会を頻繁に行っています。関西よりもっと企業家が輩出されることを願っています。
- Q. VECへのご要望などお聞かせ下さい。
- A. 豊かな社会、自由主義社会を目指し、「企業家育成」をあきらめず、例えば、「大学・大学院」「大手企業・上場企業内」における「理論と実践的な企業家養成コース」をぜひ設置して人材育成していただきたい。長期的な社内・社外のベンチャー支援制度を根気強く取り組んでもらいたいと思います。そのためにもVECの役割は大きいと言えます。

これがサムスン電子の成長の秘訣・・・

私は、タイガー魔法瓶(株)・在職中に営業所長及び支店長や商品企画開発部長や営業本部長時代の経験を活かして退職後は「トップ・優秀セールス」の養成教室を運営しながら社員教育研修のセミナー講師をしています。その経験から韓国サムスン電子の社員研修・管理職研修の講師をしています。サムスン電子は1938年創業した三星商会(現サムスン物産)の電子事業部門として、1969年に発足。最初は三洋電機や日本電気(NEC)との合弁事業を通じ日本メーカーから技術導入しました。世界的に飛躍したのは、李健熙(イ・ゴンヒ)会長が93年に発表した「新経営」戦略により品質重視の経営に転換してからです。1997年の通貨危機で業績が一時悪化しましたが、その後の積極的な海外戦略で、日本メーカーをしのぐグローバルな総合家電企業に脱皮しました。「SAMSUNG(サムスン)」というロゴは「三星」を発音表記したものです。同社の経営姿勢はその7文字で言い表せます。すなわち「スピード(S=迅速経営)」「アソシエーション(A=協働意識)」「メジャー(M=一流志向)」「ソーシャル(S=社会的責任)」「ユーザーオリエンテッド(U=顧客志向)」「ネイティブ(N=現地主義)」「グローバル(G=国際志向)」です。まず「迅速経営」。日本の大企業との比較でいえば、サムスンの意思決定や昇進などのスピードは日本と決定的に異なります。会社は漢江の南の瑞草(ソチョ)に数年前に43階建ての高層ビルを建て本社を移転しました。39階の役員会議室の壁には6、7台のビデオカメラがぐるりと配置され高速ネットワークを使い、海外との遠隔会議なども迅速にできるようにしています。終身雇用制の日本では、会社生活は40年近くに及ぶが、終身雇用でないサムスンでは会社への在籍期間は非常に短いのです。平均年数は10年以下ともいわれます。韓国では2年の兵役があり修士課程を終えてから入社する社員もいるため入社年齢は25〜26歳になります。一方、定年は55歳と日本より10年若く順調に昇格できなければ早く辞めることになる短期決戦で成果を出すのが必須なのです。サムスンには「人力開発院」と呼ばれる研修施設があり、新人教育、中堅教育、幹部教育、海外要員教育、それに語学研修などが充実しています。「サムスン人」になるための教育を全社員に施しサムスンで働けば外でも十分に働ける能力と人脈が身につくこと、中小企業の経営者になったりする人が多くいます。事業内容は、サムスン電子は、大きく分けて、情報通信、半導体、液晶ディスプレイ(LCD)、デジタルメディアという四つの事業分野を持っています。情報通信事業分野では、携帯電話端末、基地局コンピューター、デジタル・オーディオ、映像や音楽のコンテンツとサービスを担当しています。

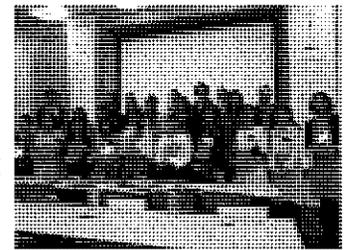
NPO法人・商縁プラザ 理事 進藤幸男

<トピックス>

・女性限定のビジネスプラン発表会開催される!! ～女性起業家支援プロジェクト「LED関西」～

今年も1月23日(土)、大阪産業創造館4Fイベントホールにて開催され大いに盛り上がりました。

このプロジェクトは成長志向の女性起業家を近畿経済産業局やサポーター(VECもメンバー)などが分野を越えて女性の「想い」や「夢」の実現を後押しする継続性のあるビジネスプラン発表会&交流会です。多数の応募者の中から予選を勝ち抜いたファイナリスト10名からビジネスプランの発表がありそれぞれ素晴らしい内容のプレゼンでした。昨年同様サポーターからは今後の成長支援策を提供したり課題解決のフォローアップがなされます。終了後の交流会も330名を越える参加者があり、昨年の受賞者や支援機関も参加して大盛況でありました。

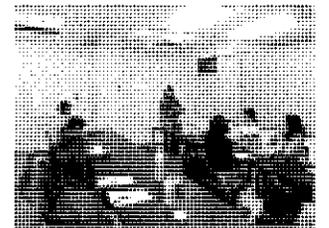


・フューチャーベンチャーキャピタル(FVC)の「女性起業家プレゼンセミナー」に参加しました!!

昨年12月18日(金)、VECでもお馴染みであり又、近畿経済産業局主催の女性起業家応援プロジェクト「LED関西」において同じサポーターとしてご活躍されているフューチャーベンチャーキャピタル(株)堺事務所長 阪口史保様が開催されました「LED関西プレ★ディスカッション」を取材させて頂きました。

この企画のテーマは「女性起業家同士が一緒に成長していけるコミュニティ創り」という女性ならではの観点で今回は海外式プレゼンコンサルタント「SHINO」講師からの、プレゼンの基礎から最後は自分だけしか出来ないプレゼンの方法を参加者の方々とワークショップも交えながら講演され、その後は3名の参加女性起業家のプレゼンを拝聴させて頂きました。参加された女性陣の皆さんの真剣さに感銘しました。

今回は取材として参加させて頂きましたが、まず「プレゼン」の入口～出口を考え次に自己開示を組み入れたストーリーを語る手法は個人的にこれからの自身の対応に大きな収穫につながることは間違いなさそうです。



・ダ・ヴィンチ展開催中!

「ダ・ヴィンチ天才の遺産 レオナルドと歩む未来展」がグランフロント大阪北館ナレッジキャピタルイベントラボで2015.12.23～2016.2.14で開催されています。

主催:関西テレビ放送、朝日新聞社 監修:NPOダ・ヴィンチミュージアムネットワーク 協力:大阪大学、関西大学、ナレッジキャピタルほか。

皆様ご承知のとおり「最後の晩餐」「モナ・リザ」の作者であり天文学、航空力学、解剖学など科学・技術・芸術の枠を超えたレオナルド・ダ・ヴィンチは、もし21世紀に生きていれば間違いなくロボットを作っていたと言われていています。圧巻はダ・ヴィンチをアンドロイドとしてよみがえらせた人物像で本当にそこに座っている様に見え、すごい一言です。ロボット事業は注目されていますので是非ご覧頂いては如何でしょうか。

一財)VEC関西支部 事務局

～VEC関西より～

- ・一月も半ばになった今、3月決算のところは最後の売上増強に発破がかかっていることでしょう。中国の景気の息切れが気になりますが、日本の製造業はまだまだパワーが在りそうです。初詣のお賽銭も随分の額になったそうで、今年もプラス思考で切り抜きたいと思っています (本田)
- ・暖冬で雪が降らなくてスキー場も雪を運んで来る、というようにご苦労されている場所もあるようです。昔は六甲や、びわ湖、白馬とかに行っただのを思い出されます(会社の保養所があった時代ですが・・・)。今は温泉で雪見酒～♪がいいですね! (藤本)
- ・今年には新年の抱負として「ステップアップ」を掲げましたが、まずは身体面としてウォーキングを始めました。今さらという声もございましょうが、有酸素運動で筋力アップ、歩くことにより気分をリフレッシュ、それとによりいつでも出来るというのが私にとってコツコツできるのではないかと考

えました。さて、いつまで続行できるか今後の皆様へのご報告とさせていただきます。 (濱本)

- ・老舗・長寿企業に詳しい森下社長、ベンチャーサポートで著名な大野代表、企業OBで現役講師の進藤理事から大変参考になるメッセージを頂きました。立春を迎え、オリンピックイヤーに相応しい挑戦を今年も続けたいと思っております! (澤村)

<交流会の予定>

新年交流会

平成28年3月24日(木)

近畿経済産業局 創業・経営支援課 課長 足立 光晴 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293

株式会社ペイルインテリア 代表取締役 金城貞美様から 女性の起業や経営などについてお伺いしました。

昨年の女性起業家応援プロジェクト（近畿経済産業局事業）でサポート賞を受賞されインテリアコーディネート事業や整理収納サービス（美整収）事業を軸に全国展開を目指されている株式会社ペイルインテリア代表取締役の金城貞美様から女性の起業や経営などについてお伺いしました。

- Q. 創業された動機や思いはどのようなことからですか。
- A. 心地よい空間、美しい空間で人は幸せになります。そういった感動空間を少しでもご提供したい、と思い創業いたしました。
- Q. 貴社の業務内容や今後のご計画などはどのようなでございますか。
- A. インテリアコーディネート及び整理収納作業（お片付けサービス）、講演を中心に活動しております。モデルルームやゲストハウス、サロンなどの商業施設から一般住宅のコーディネートまで幅広く手掛けております。インテリアや整理収納によって空間を整えるということを動画とスカイプのサービスによって忙しい皆様に簡単に取り入れるITを使った普及を今年からはじめました。小さなお子様から高齢者までこのサービスをご利用いただけるような取組みを今後も検討しております。
- Q. 事業を起こされて良かったこと、ご苦労されたことはございましたか。
- A. 私自身のライフワークバランスが自分自身でコントロールしてとれるようになったことで日々のストレスがなくなりました。また女性特有の知識や経験を活かせる仕事ですので、さまざまな女性から共感の声をいただけるのは非常にうれしいことです。苦労した点は、数々ありますが、1つ1つ地道にハードルと超えてきたと思います。

「モノ」を提供しているサービスではないので、このサービスを認知していただくまでは大変でした。

- Q. 上場企業も増加して参りましたが、関西はもう少し頑張っ欲しいところですか。関西の活力アップには何が必要と思われますか。
- A. 関西ならではの、商売人としての覚悟や自信。もともと関西人が持っている、企業として信頼を培っていける人間力やコミュニケーション能力を最大限に生かしていきたいと私自身も思っております。
- Q. これから創業される女性の方に対してアドバイス等お願いします。
- A. 今はさまざまな働き方、多種多様の起業の方法が選べる時代となってきました。ただその分「前向きなのは後ろが崖だから」という覚悟も必要です。その事業に対して覚悟をもって、女性らしくしなやかに楽しくとにかくやってみてほしいと思います。一歩踏み出す勇氣、私もこの気持ちを常に忘れずに邁進していきたいです。

自宅にいながら3ヶ月で整理収納が学べます



「～スタン」の国々とは？ —中央アジアの5つの国—

「～スタン」という国名を聞いてみなさんの頭に浮かぶのは？ イスラム、テロ、危ない、怖い。そもそも、どこにあるのか分からない…。



(出所：Google Map)

「スターン」は「～な土地」の意味を持つ接尾語です。国名にこの語を持つ国家は、南・中央アジアに7か国あり、ユーラシア大陸中央の内陸部に位置しています。やはり、どこなのか分からない…？では、地図をご参照下さい。

今回は、この「スタン」地域のうち、私自身が合計7年滞在した「中央アジア」についてご紹介させていただきます。

「中央アジア」の定義についてここでは深く掘り下げませんが、日本では一般的に、1991年のソビエト連邦の崩壊により独立し誕生した共和国のうちの5か国であるウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタンを指すものと理解できます。こう説明すると、多くの方が、納得したように「ああ、ロシアのことか」とおっしゃいます。違うー！「ロシア連邦」という国家とは別ものですねー…。

確かに、中央アジアでは今もロシア語が広く用いられており、1917年から74年間続いたソビエト体制の元、ロシアの影響も大きく受けました。

これ以前の19世紀には、その地政学的重要性に鑑み、ロシア帝国と大英帝国とがこの地域の争奪戦（いわゆる「グレートゲーム」）を繰り広げたわけですし、さらに、千年以上を遡った唐の時代には、東西貿易にあたっての主要ルートである「シルクロード」がこの地域を貫いていました。これらの悠久の時を経て、さまざまな政治的、経済的動機に基づき、あらゆる国家、民族、文化が多様に交錯してきた土地なのです。



(タジキスタンの首都ドゥシャンベのバザールと色とりどりのスパイス)

現地の人々の顔を見ると、この歴史を実感します。キルギスでは、道を歩けば「うちの親戚のおじさんか？」というような典型的モンゴロイド顔

の人々に遭遇します。但し、カザフ、キルギスは遊牧騎馬民族であるせいか、日本人より腰高で足長な傾向。ウズベク人はトルコ系なので全般的に浅黒くもう少しくっきりした容顔の人が多いますが、タジク人はバルシヤ系民族なので一段と濃い顔。私の現地駐在時代の日本人の友人に言わせると、「3メートル以内に近付いてほしくない」。彼女のタイプはすっきり顔だったのです。「でも、タジクの女性はすごくきれい」とのこと。この他、もちろん、減少したもののロシア系、韓国系などの人々もいます。



(カザフスタンの経済、文化の中心都市アルマトイ (奥は天山山脈の支脈))

5か国合計の人口規模は約6,500万人、大部分はイスラム教徒です。しかしながら、各国を個別にみると、人口、面積、経済規模、賦存資源、成長の進捗、産業構造、民族構成、信仰の程度などの点で大きく異なっています。

概ね共通しているのは、日本人に対し敬意を表してくれ、経済的余裕がないながらもホスピタリティ全開でもてなしてくれる人が多い点です。

昨年10月、安倍首相がこれら5か国を歴訪しました。天然資源の安定的確保、日本のインフラセールスなどに関する報道をご記憶の方もおいででしょう。

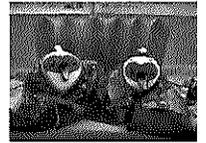
しかし、ここでそろそろ「てんこもり」読者の方は疑問がわいてくるはずですよ。

「それほど大規模ではない事業以外の潜在性はどうか？ ビジネス環境、チャンスは？」それを語るには割当字数が足りなくなりました。

しかたがありません。百聞は一見に如かずです、ちょっと行ってみませんか？ お伴します。

(撮影：アフマッド ラフモノフ)

大阪駅前第1ビル8階に入居され、注目されている新潟県の情報提供や企業進出のサポート等でご活躍されている「新潟県大阪事務所様」から最近の情報や魅力について伺いました。さらに詳しくは大阪事務所へお問い合わせ下さい。



(新潟県宣伝課長トッキキ)

Q：最近の大阪事務所の業務などをお教えてください。

A：①関西での新潟県の観光・物産のPRと、②関西の企業様の新潟県での工場や事務所の立地をサポートしています。特に、北陸新幹線の開業で近くなった新潟を、食を通してより親しんでいただこうと、平成26年4月に、ホワイト梅田にアンテナショップ「じょんのび にいがた」を設け、好評をいただいています。

Q：新潟県の最近の話題についてお教えてください。

A：昨年3月に北陸新幹線が金沢まで開業しました。大阪からサンダーバードで金沢まで行き、北陸新幹線に乗り換えると、新潟県南西部の糸魚川市・上越市まで約4時間に到着します。上越市の直江津港からは、高速船で佐渡へその日のうちに渡ることも可能になりました。関西からの旅行客も大幅に増えており、今後ますます交流が活発になると期待されています。

Q：新潟県の観光やグルメなどの魅力について教えてください。

A：まもなく桜の季節になりますが、新潟では、日本三大夜桜のひとつ上越市「高田城百万人観桜会」が開催され、雪国・新潟の花のシーズンが始まります。県の花・チューリップ、佐渡の秘境・大野亀のカンゾウなどが続き、夏には、大空に花火が打ち上がります。新潟県の温泉地の数は150か所で、全国3位。温泉に浸かり、本場のこしひかりと地酒、のどぐろなどの日本海の幸をご堪能ください。

Q：関西の企業や経営者へのメッセージをお願いします。

A：新潟県は、燕三条に代表される金属加工の産業集積があり、米を中心とした食品産業も集積していますので、関西の企業様の様々なものづくりのお手伝いができます。また、新幹線、高速道路、港、空港が整備されており、関東、東北、北陸を見渡せる位置にあります。日本海側唯一の政令市・新潟は80万人の人口を抱え、人材も豊富です。東日本への事業展開を考える上では、外せない県であると自負しております。新潟県についての関心事があれば、いつでもお気軽にご相談いただければ幸いです。

新潟県大阪事務所：大阪市北区梅田1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階 電話06-6348-9405



～下流老人の日本経済恨論～ <前編>

「下町ロケット」が示すもの 昨年末、大好評で終了したTVドラマ「下町ロケット」は、精密バルブ機器などを製造する大阪の(株)フジキンが、撮影に全面協力したことも大きな話題となりました。「てんこもり」紙上で再三「技術力のある中小企業が日本を救う」と書いていた私も、嬉しさが倍増しました。TVドラマを見て、あらためて「もの造り」の重要さ、素晴らしさを再認識させられました。折しも、世界レベルで地政学リスクが増大し、経済は大混乱に陥っています。各国は必死になって「金融緩和」に走り、金融政策だけで乗り切ろうとしています。逆に溢れ出す「マネー」に翻弄され、袋小路に陥っています。我が国も通貨価値を下落させ(*1)、輸出主導を展開しましたが、円安効果も剥げ落ちてきています。

(注1) 通貨の本当の実力を示す「実効為替レート」は、2010年を100とすると「円」は2015年1月時点で70.32。ドル113.37、ユーロ91.01 元131.30。

B I S (国際決済銀行) が公表。週刊東洋経済 (2015/10/10号) にも掲載

内需主導へ 「てんこもり」で何度も書いてきましたが(*2)、これを契機に内需主導の経済政策に切り替えるべきです。GDP (国内総生産) の6割を占める「国民の実質的な購買力」を取り戻し、高める方向への転換が必要です。老人世帯を中心に生活保護世帯が最多となり、あわてて低年金所得者に三万円の一時金支給を打ち出したり、若者向けへの携帯電話の料金引き下げや、非正規雇用が4割を占める現実を無視し、再び「官製賃上げ」を目指すなど、その場しのぎ、場当たり対策ばかりが目立ちます。生活感のないエコノミストたちが、「デフレマインドが払しょく」「値上げが浸透しつつある」とヨイショしながらも「原油安が誤算だが」と言い訳しており、見苦しいのひと言に尽きます。早朝、スーパーの前でお買い得チラシを握りしめ、列をなしている老人たちを目にする機会が多くなりました。買い貯めの効かない生鮮食品など、やむを得ず値上げを受け入れ、生活防衛に走る姿を目の当たりにし、同じ下流老人として、やるせない気持ちに陥ります。これを裏付けるように、公表資料によれば、実質的な消費支出は減少してきています。消費増税に象徴される今の政策は、極端な表現をすれば、庶民から大企業への「所得移転」であり、同時に国内から海外投機筋への「所得移転」といいいいでしょう。今すぐ消費税を縮小・廃止し「国民の実質的な購買力」を取り戻す必要があります。私は、「造られた財政危機」という立場を取っています(*3)。世界一の海外資産 (343兆円2015年6月末/日銀の資金循環統計より) を持つ企業、豊富な内部留保(*4)、海外投機筋の「円」買いなどの事実が、日本の国際的な評価を物語っています。

(注2) 2013/2 2013/8 2014/11 2014/12 (注3) 「てんこもり」2013年2月号ご参照。

(注4) 上場企業の手元資金は2014年度末で105兆円。総資産の12%に。実質無借金企業は1800社以上。55%の企業が無借金 (2015/7/9日経)。

「選択と集中」の恐さ 大企業は「選択と集中」という形で、将来有望な事業や技術を切り捨てる傾向にあります。開発予算は縮小され、M&Aに走って業容拡大を図る企業も多いのですが、複数の経済雑誌から「近年のM&Aの大半は失敗」と何度も指摘されています。外国人が3割以上を占める株主構成(*5)。「株主還元を！」「業績の向上を！」と矢継ぎ早の要請に、経営は短期志向となりがちです。グローバル化の美名のもとに、海外投機筋を中心とする金融資本の要望に応えようと焦り、早期に採算や事業化の目途が立たない事業は、「構造改革」の美名で切り捨てる傾向にあります。今や日本の独壇場となった「炭素繊維」や「LED」などは、気の遠くなるような時間をかけて技術開発し、事業化されました。とても残念ですが、関西育ちの三洋電機、シャープの凋落をみれば、経営判断の遅れも含め、事業を絞り込む「選択と集中」の怖さが痛感されます。 2016年1月12日・記

(注5) 日本取引所の調査では2014年度の株主構成で外国人は28.0%。信託、証券の名義をあわせると30%以上。

羽世田 鉦四郎 (元・ベンチャーキャピタリスト)

～VEC関西より～

・真冬だというのに、今京都は観光客で溢れている。ホテルは全然取れないらしい。街には東洋人らしき人たちが、狭い歩道を横に広がり、大きな買い物の紙袋を3～4個ほど持ちぶらぶら歩いて、地元の人々の非難を浴びている。爆買だ！京都経済にとっては良いのだろうか、マネーも勉強してほしいものだ。もうすぐ桜になり益々増えそうだ。(本田)

・週1回はスポーツをやっています。先日ボディケアのお試しで酸素カプセルに入る機会がありました。超有名なアスリートのスポンサーをされているメーカーです。アスリート達が利用するのが良く判ります！30分でしたが少し疲れが取れたような気分になりました。閉所恐怖症の方はご用心…。(藤本)

・休日に自宅から大阪城の梅林公園までウォーキングで片道30～40分かけて歩きました。梅林公園は1000本以上の色々な種類の梅が咲き、又多くの綺麗な梅の木越しに見える大阪城もより一層映えて、あちらこちらから聞こえるシャッター音も納得のいく響きでした。(濱本)

・今注目されている女性経営者のお一人である金城代表や知ってるようで知らないことも多い「～スタン」について山中様から、また新潟県の出先機関としてご活躍中の白井所長代理と今回も鋭い分析を羽世田様からご寄稿頂きました。(澤村)

<交流会の予定>

平成28年4月18日(月) トーマツベンチャーサポート株式会社

監査法人トーマツ

主宰・マネジャー吉川和美様と

女性ベンチャー経営者

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



『ものづくりで感動を!』

昨年、VEC関西支部様で、弊社の真空フライ装置及び技術を、六次産業化での取り組みとしてプレゼンテーションさせて頂きました、神戸の株式会社アトラステクノサービスです。

この度、近畿経済産業局の「関西ものづくり新撰2016」での認定と、兵庫県においての「ひょうごNo.1ものづくり大賞」技術部門賞の受賞となりました。



(技術部門賞)

真空フライ装置の機械メーカーとしての事業と共に、もっとこの技術を世の中に普及させたいという思い、まだまだ新技術であり、新商品をここ数年出し続けていますので、認定・受賞・補助金・プレゼン大会など、機会があれば、果敢にアタックしております。

私自身は、栄養士・フードコーディネーターなど食に関する資格を持っています。起業して18年となります。弊社のもともとの柱である濾過装置事業を展開するにあたっては、装置の営業活動と、社員を食べさせなければならないという思いで、純粋に機械メーカーとしての立場での活動でしたので、自分の得意分野である「食」を封印していました。

真空フライの技術自体も、だれも関心がない時代を何年も過ごしてきました。しかし、約10年前より、二本目の大きな柱として本格的に取り組みし出して、ようやく私の「食」の力を発揮できる場となりました。

そもそも、国産の規格外の農産物などを捨てずに使おう！そのためにこの技術を活用しませんか？ということ起業した時から言ってきましたが当時は見向きもされませんでした。

「わざわざお金をかけなくても捨てれば早いんだ！」と直接農協から言われたこともあり、愕然としておりました。

現在、国産素材の安全・安心・大事さ、また農漁業者さんにとって、収穫した農産物等を規格外品も含め、いかに有効に利用し、お金にしていくのが課題となり、ようやく弊社の技術が力を発揮できる時代がきたと思っております。

関西ものづくり新撰の受賞式で頂いた言葉があります。

「安心・安全を超えた、感動を人に与える技術であり取り組みだ」と。私どもの方が感動いたしました。

「食にこだわる機械メーカーです～田や畑や石釜まであるんです～変な会社でしょう～」と今まで人様に言ってきましたが、機械に心(心情)がついているという情緒的な部分でお褒めいただいた事は、私が行ってきた事業の根っこを代弁して頂き、再認識させて頂きました。

現在、弊社技術を活用し、神戸市及び兵庫県との農商工連携も本格化してきております。

第二創業として、地域との連携による食品加工業を行うことになりました。

開発商品である神戸市西区の「太秋柿チップス」は、神戸市内のJA兵庫六甲販売所全店舗、また神戸六甲ベイシェラトンホテルで販売されています。「神戸の農業」のアピールの為、地域の素材の活用・ブランド化の為、今後も色々なラインナップを計画しています。

また、関西ものづくり新撰2016認定企業のために、本町の大阪産業創造館地下1階、大阪企業家ミュージアムにおいて「挑戦・創意工夫 今活躍する企業家たち2016」の企画展示が行われております。

2016年5月31日(火)まで、日・月・祝日は休館日となっておりますので、お時間がございましたらぜひ足を運んでいただければ存じます。

これからも、ものづくりの機械メーカーとして皆様に感動を与えられる仕事をしていきたいと思っております。

秋以降、社内の改装が終わりますので、こちらへおこしの際は、「神戸市にこんなところがまだあったのか!？」という、のんびりとした神戸の田舎へ、食の新技术を見に、お立ち寄りください。

(株)アトラステクノサービス 代表取締役 鯛 かおる



(製品の一例)



「生きがいと健康」に繋がる音楽を、 Googleストリートビューと共に!

「家に眠っているピアノがある」「昔から、ピアノは憧れでした」という方は多いですね。確かに、日本は『鍵盤の普及率が世界NO.1』(4世帯に1台)となっています。

しかし、「ピアノは、スグに弾けるものではない!」と多くの方が感じています。それもその筈、ピアノ演奏の習得には、通常数年間が必要とされるからです。

しかし、その不可能を可能にしたのが、『らくらくピアノ』です。

ご挨拶が遅れましたが、私は『一般社団法人 全日本らくらくピアノ協会』代表の光畑浩美と申します。

「ピアノ経験がない80歳も、その場で両手が弾ける!」という弾き方(メソッド)の考案者です。愛する母に、ピアノを楽しんでもらいたい一心で、10年前、『指番号でスグ弾ける』弾き方を考案しました。(特許庁:商標登録済。実用新案申請中。)

この『らくらくピアノ』は、A4一枚の用紙で市民講座から始めたものですが、最初のうちは「ピアノは難しすぎる!」と、ことごとく周囲から断られ続けました。しかし、文部科学省主催「全国生涯学習フェスティバルまなびピア」をきっかけに全国的活動となり、「Amazon・楽天で新譜ランキング、連続1位」を獲得し、現在では官公庁との連携による市民大学講座・カルチャー教室・楽器店など約3,000名を超える受講生と認定講師約700名となりました。ふと気が付くと、受講生は70代~80代の方ばかり。



(トラベリング・ピアノ)

皆様、口を揃えてこう言われます。「ピアノは人生を豊かにして、認知症予防にも最適である」と。そこで私は、独自の弾き方(メソッド)を基に「世界初!指の万歩計に相当するものは作れないだろうか?」と考えるようになりました。指を、わずか1回「ポン!」と弾くだけで1.4calも消費するピアノ。この素晴らしい健康効果を画像表示しつつ、「ピアノを簡単に弾くと、Googleストリートビューの画面が進んで、旅をしている気分になれる」という、世界初の手の万歩計(名:トラベリング・ピアノ)を提案しました。ありがたい事に、このプロジェクトは『経済産業省近畿経済産業局主催:LED関西』においてファイナリストに選ばれ、さらに『ナレッジ・イノベーション・アワード2016』にて優秀賞を受賞しました。ますます高齢化が進む日本。ピアノを通じて、より多くの方々に「生き甲斐と健康」を御提供できますよう心から願っております。

一般社団法人 全日本らくらくピアノ協会
代表理事 光畑 浩美

〒530-0011 大阪府北区大深町3-1
グランフロント大阪ナレッジキャピタル8階

TEL: 06-6734-3339 FAX: 06-6734-3335
Email: info@rakurakupiano.jp



ヤンゴン(ミャンマー)の経済・文化視察報告

2016年1月24日～1月27日(3泊4日)、総選挙前から数えて5回目の訪緬となり、宿泊は五つ星ホテル「スーレ・シャングリラホテル」、メンバーは精鋭4名。
(ミャンマーの概要と政治問題は省略します)

今回の主目的は

1. ミャンマーインレー湖近くの小学校に教育用DVD等の電化製品を贈呈すること。(2012年9月、インレー湖近くの小学校を訪問し、ノート100冊等文房具を贈呈した際、電気が通じたら教育用DVD等の電化製品一式の贈呈を約束、今回、目出度く電気が通じたとの情報を得、約束を果たすため)
2. JETROヤンゴン事務所及びミャンマー日本商工会議所を訪問し、直近のミャンマー現地情勢等についてお伺いすること(詳細は以下に記載します)
3. ミャンマー経済特区(SEZ)の一つである「ティラワ工業団地」を見学すること。
4. ヤンゴン大学他ヤンゴンの大学を見学すること。
5. 今回5回目の訪緬となるため、初回訪緬から発展している情勢変化を確認するため。

結果報告

○小学校への電化製品贈呈手続処理完了

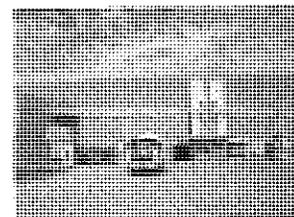
○JETRO海外投資アドバイザーのご説明内容の概要は下記の通りですが、極めて有意義な2時間でした。

- ①ミャンマーの有望性として人口5200万人の市場があり、天然資源も豊富な国土で低賃金の豊富な労働力と高い識字率の労働市場がある。GDP544億米ドル(日本の山口県並)(1人当たり1200ドル)。賃金は、一般ワーカー127米ドル/月、スタッフ一般職354米ドル/月。インフラ整備・制度改革を着実に実行すればビジネスチャンスは大きく期待できる
- ②日本政府支援(ODA・円借款・技術協力・人材育成等)のインフラ整備実施(電力・鉄道・通信・港湾・都市整備等)及び日本の民間投資が経済発展に寄与しつつあり日本企業が経済特区の工業団地等へ大きく投資する市場になりつつある。
- ③日本企業の直接投資は年々増加しており、ミャンマー日本商工会議所加盟企業数は50社(2012年まで)から現在268社となっている。
- ④日本のメガバンク3行ヤンゴン支店開設済みで2015年12月に念願のヤンゴン証券取引所が開設され、金融面でも規制緩和されつつある。

詳しい資料が必要な方は、「VEC経由」にてお申出てください。コピーを差し上げます。

○ティラワ工業団地の概要について(2015年9月23日開業)

- ①工業団地開発運営会社は日緬合弁会社で出資比率日本49%(JICA・三菱商事・丸紅・住友商事)・ミャンマー51%。
- ②総開発用地2400ヘクタール(東京ドーム500個分)ヤンゴンから南東20km、ティラワ港に隣接。先行クラスA開発396ヘクタール(第1期211㌔完工済)
- ③近隣に「STAR・CITY」が既に出来上がっており、社員がいつでも居住可能な状態でスーパーマーケット・ゴルフ場・レストラン・学校・医院等完備されている。
- ④インフラも整備中で、ヤンゴン市内からティラワ工業団地までのアクセスとして「新タケダ橋」を建設中(日本無償供与)、上水道整備事業(円借款237億円)、ガス・送水管、変電送配電網、港拡張工事等(円借款200億円)インフラ整備中。
- ⑤予約契約締結企業数52社(内日系企業26社)2015年11月15日現在)
- ⑥ミャンマーの雇用創出につながる重要プロジェクトで、優遇税制の享受・ワンストップサービスセンター設置による迅速・円滑な各種許認可取得が可能となり、海外からの投資が加速すると思われる



(ティラワ工業団地の正面の写真)

○その他見学先について

- ①ゲーリープレーヤーが設計したヤンゴンNO.1のゴルフ場「パンラインゴルフクラブ」で、ハーフのみラウンド(7ホール目)で乾季では極めて珍しい大雨に合い中止)。貸クラブ・靴含めてプレー代金91ドルと平日の日本と大差はない価格ですが、現地では約1ヶ月の賃金に等しい高額なプレー代です。
- ②ヤンゴンの環状線でのんびり田舎の景色を満喫。ディーゼル車で時速30キロ程度、運賃一人20円と極めて安い。中央駅にて乗車したため、満員列車となったが、若い女性が席を譲ってくれて、久しぶりに新鮮な気持ちになった。
- ③ヤンゴン大学、ヤンゴン外国語大学を外からの見学となったが歴史もあり、識字率が高く(80%)、英語をはじめ語学等の向学心は高いと感じた。電力の普及率30%、水道の普及率8.2%、鉄道列車の電化の遅れ、銀行を信用しない札束社会等まだまだインフラ整備、制度改革等問題は多々ありますが、最近では、日経新聞のミャンマー特集、テレビでの新生ミャンマーの紹介等、注目されているミャンマーを4日間でしたが、直近の現地情勢を体験でき、5年後を目指したビジネスチャンスも期待出来そうな、今回も極めて充実した経済・文化視察でした。



(環状線中央駅)

一般社団法人ベストビジネスセンター(通称BBC)代表理事 山下 太一郎

<トピックス>

～京都大学が大阪大学に続きファンド(国の出資金を財源)設立～

すでに発表されていますが、京都大学産官学連携本部から内容を伺いました。

ファンドを利用されるような案件がございましたら京都大学イノベーションキャピタル株式会社かVECへご連絡下さい。

◎主旨: 京都大学の研究成果を事業化する企業への投資事業を通じて、その研究成果を社会に還元し、我が国の産業競争強化に貢献する。

◎ファンドの内容

・京都大学イノベーションキャピタル株式会社がファンド運用

京都大学100%出資の子会社。設立 平成26年12月22日。資本金 35百万円 代表取締役 樋口 修司(武田薬品・元執行役員)

・ファンド総額 160億円(うち京都大学 150億円、銀行など10億円)

・運用期間 15年間(最長20年)

・長期ファンドとの連携 NVCCや、みやこキャピタル(本社京都)と企業育成などで連携して行く。

・対象企業 IPS細胞などバイオや世界トップレベルの工学、化学分野などに注力する。

・目標 今後1社3億(当初投資)位、年間10社程度を目標。企業の所在地は問わない。

関西支部 事務局

～VEC関西より～

・いよいよ、我が国もベンチャー時代が到来したという感がありますが、国立大学までがファンドを立ち上げ、ベンチャー育成に力を入れてきました。VEC関西からも新しい研究開発型のベンチャーを生み出したいものです。(本田)

・我が家から歩いて15分くらいの所に、日本最古のため池(狭山池)が今年2016年に築造1400年を迎え、色んな行事が行われます。狭山池には大きな黄色のラバーダック(5/8まで)が浮かんでいて多くの人達で賑わっています。まだ行ったことがないのですが安藤忠雄氏の設計の博物館もあります。(藤本)

・知り合いの方から我が家へ山で採れたタケノコをたくさん送って頂きました。春だなあと食べ物から季節感が感じるのも和食ならではの。また私のクローゼットにかかっている冬物の全体的に黒っぽい洋服の色から何着か春ら

しいパステルカラーの洋服と交換し気分も軽やかになりました。クローゼットも洋服の色によって軽くなったように感じます。(濱本)

・今月にご活躍中の女性経営者にご登場頂きました。4月から女性活躍推進法が実施され、まさにそれに相応しいお二人であります。ミャンマー事情は当方の編集事情で5月号となりましたが、いよいよ動き出したミャンマーを山下代表からメッセージ頂きました。(澤村)

<交流会の予定>

平成28年6月13日(月) 株式会社 マックマシントール
会長 CEO 岡田 年晴 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



『ベンチャーとして社会に役立とう』

—下條NCD名誉会長(VEC理事)がVEC関西支部とフジキン訪問—

VEC創立時からの主要メンバーで理事の下條武男 日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社(NCD、本社・東京都品川区)名誉会長・創業者が2月22日、VEC関西支部と株式会社フジキンの総本社(大阪市北区)、および同社のゲストルーム「うめきた創庵」を訪れ、小川洋史フジキン代表取締役会長兼CEO(最高経営責任者)、本田英行支部長(本田工業株式会社代表取締役社長)、澤村佳宏事務局長と懇談しました。

最初に訪れたVEC関西支部では月刊の機関紙「てんこもり」や1月と8月を除いて毎月、開いている交流会など、事務局から支部活動が説明されましたが、特に交流会に関して、「経営者、大学の先生、官庁の中小企業・ベンチャー企業(VB)支援担当者、ベンチャーキャピタル(VC)や金融機関、VB支援団体、文化関連団体などの代表者・責任者らに講師をお願いし、大阪産業創造館で開いている」と具体的に報告するとともに、講師に東京の経営者や女性起業家も招くなど多彩で、午後6時過ぎから開催し、会員は無料、非会員は「含弁当代」で2000円。講師の話だけでなく、参加者とも交流できるとあって、「毎回、40~50人ほどが集まり、お互いにネットワークを広げている」と交流会が好評であることを力説していました。

しかも、今年2月発行の「てんこもり」が137号を数え、交流会にいたっては1975年7月のVEC創立以来、ずっと続けているということで、「関西は活発やな」と大阪・四天王寺近くの生まれの下條氏は、大阪弁で応答。本田支部長が本田工業(HONDA DYNAMICS)の事業を「自動車・車載機器の走行模擬試験装置や建築・建材の耐震・風圧試験装置、風洞関連の試験装置などを設計・開発している」とパンフレットをもとに説明しながら、「当社はVEC創立の数年後に債務保証を受けた。その時の審査委員長は本田宗一郎氏だった」と振り返ると、下條氏も「私は1967年にNCDを創業したが、採用した人が仕事ができるようになるまでの教育に、ある程度の時間がかかり、この間は給料を払うだけ。これを繰り返しながら組織をつくり、何とか乗り越えてきた」と話はVECの活動と経営を中心に進展。その後、3人はフジキンに移動しました。

フジキンの小川会長と下條氏はVECの母体となった日本ベンチャー・ビジネス協会(71年8月設立)、関西ベンチャー・ビジネス協会(同72年8月)で、ともに活動したという旧知の間柄。当時の社名は「富士金属工作株式会社」で、常務だった小川氏は実兄の小川修平副社長(79年11月社長、2004年9月逝去)の代理として会合に参加。本田氏を交えて、東西の協会が国際シンポジウムを共催したことなどに話が及ぶとともに、下條氏が日本ベンチャー・ビジネス協会の代表幹事を務めたこともあって、「今のVECがあるのは下條さんのお陰」(小川氏)、「小川さんは若手の元気なメンバーだった」(下條氏)と会話が弾みました。

その後、訪れた「グランフロント大阪」にあるゲストルーム「うめきた創庵」では、淀川や大阪湾、六甲の山並を眺めながら、小川氏が「関西を元気にするには淀川をもっと活用しなくては……」「大阪城を“だいはんじょう”と読んで、安土城など関西のお城を全部復活させて観光を活発に」と主張すると、下條氏も「和食がユネスコ(国連教育科学文化機関)の無形文化遺産に登録されたが、和食を代表する懐石料理は京都で生まれた。関西が発祥の料理もビ

ジネスも多い」と関西を巡って活発に意見を交換。その後、「創庵」の大きなスクリーンに映し出されたフジキン産のチョウザメ(「超ちょうざめ」「キャビア・フィッシュ」)へと話題が発展しました。

「超ちょうざめ」はフジキン(Fujikin Carp Group)が流体(ながれ)と環境を超精密に制御するバルブ(弁)の技術を駆使して、92年に民間企業として日本で初めて人工孵化に成功し、98年には世界で初めて水槽での完全養殖を実現。現在、同社の「万博記念 つくば先端事業所」(茨城県つくば市)の広大な敷地内の水槽で、完全閉鎖循環濾(ろ)過方式により、数万匹が飼育され、「古代魚による最先端のヘルシーな和食」の“食材(財)”としてホテルやレストランなどに提供されています。

つくば先端事業所はTBS系列で昨年10月~12月に放映されたドラマ「下町ロケット」のロケ地選ばれ、同社は撮影用にロケットエンジンのバルブも製作しましたが、小川氏は「当社は昭和5年(1930年)の創業で昨年が85周年だが、いつも“ベン(弁)チャレンジャー”の精神でオンリーワンを目指している」と強調。

下條氏も「アベノミクスで以前より、『ベンチャー』という言葉が使われるようになったが、最近、ベンチャーの理念を再確認する必要があると思っている。ベンチャーというのは、新しい製品やサービスを開発し社会に役立つとともに、従業員が働く喜びを味わえるような会社で、『利益は社会に役立った対価だ』という考え方が重要だ。さらに“世界平和”という大きな目標も掲げたい」と、ともに年齢を感じさせない口調で語り合い、経営を支える理念、精神、志を巡って話が尽きませんでした。

「うめきた創庵」は高野山大学フジキン小川修平記念講座、フジキン小島・小川科学教育振興基金、「交流実践誌」の「THE ZEN」、技術情報誌の「ながれとともに ながれをこえて」、知財・技財・人材戦略情報誌の「New テクノマート SO創」、「うめきたナレッジセンタ」などと並ぶ同社のCSR(企業の社会的責任)活動の一環として2013年8月に開設されたもので、「VEC関西支部の紹介で、経営者や各分野の専門家らが講座や交流会を開く場として無料で使用できる」。まさに「社会に役立つ施設」です。

右下の写真=下條氏(手前左)、小川氏(同右)、
本田氏(下條氏の奥)

〈記事は下條氏に随行取材した松浦 利幸(ジャーナリスト、元・日本工業新聞=フジサンケイ ビジネスアイ記者)が執筆〉



(フジキン創庵での懇談)



(フジキン総本社でも話が弾む)

~株式会社フジキン 小川洋史氏(代表取締役会長 兼 執行役員 会長 兼 CEO)が春の叙勲を受章されました~

長年の業界への貢献と発明考案へのたゆまぬご努力が認められ、「旭日双光章」を受章されました。心よりお祝い申し上げます。

小川氏はすでに平成13年黄綬褒章(発明考案とその育成者に授与される)も受章されています。

VECにおきましても長年にわたりご支援ご協力を賜わっておりまして、その功績は万人が称賛いたしております。

「下町ロケット」では「フジキンつくば先端事業所」を撮影協力されるなど多方面でご活躍されており、さらなるご発展を続けられることを確信しております。

「高校生からシリコンバレー起業教育」

「世の中の問題を解決したい」。私たちKAPION（カピオン）は、その志を遂げようとする研究者や研究開発をする企業、技術系のスタートアップ（起業家）に対して研修プログラムの提供、個別にメンタリングを東京や大阪にて実施しています。

技術系スタートアップの場合、未発展の市場から顧客も気づいていない問題を見つけ出し（これがマーケティング）、その市場の発展と共に革新的な術の違いの解決策を商品・サービス化して、世の中に提供するまでのキャズム(死の谷)を超えるところまでが、まず最大の難関です。日本には世界に誇る技術が数多くある中、いざビジネス展開となると技術後発国にリードを奪われ市場シェアを一気に逆転される現状も多く起こっています。それはなぜか？

シリコンバレーには技術が集積しているわけでもないが、あの場所には世界中から技術が持ち寄せられ、技術を商品化・事業化しようとするスタートアップがあります。そこにノウハウが蓄積され、日本でもよく知られているシリコンバレー発の技術系スタートアップが生まれ、またそこに富をもたらし、人が集まり、ノウハウが更に次々に広がるエコシステム（支援の循環環境）が構築されています。私たちKAPIONは、そのエコシステムが日本でも独自に機能するように行政や大学、民間企業にも働きかけをしています。

例えば、NEDOのSUI（スタートアップイノベーター）事業、TCP（テクノロジーコマースリレーションプログラム）事業などの研修にて弊社の技術系スタートアップ研修プログラムを採用されています。その他、慶応義塾大学リーディング大学院プログラムでも大学生向けにアレンジしたものを提供しています。

昨今日本から大勢の起業家がシリコンバレー詣でをしていますが、KAPIONは2017年夏より、逆にシリコンバレーの起業家予備軍とも言える現地の高校生と日本の高校生を一つのチームにして、シリコンバレーの起業マインドのユニークな体験プログラムを企画しています。その前段階としてまずは今年の夏に、技術系の大学に進学する国内の高校生を対象とした体験プログラムの実施を実施し、シリコンバレーの高校で起業教育を担当している教員を招聘し、まずは国際高校生テクノロジープランコンテスト&集中合宿を開催します。このワークショップでは最初からグローバル化に対応すべく、基本的に全てを英語で行う予定です。ご興味のある方はお気軽にメールよりお問い合わせください。学生に向けた参加募集については、4月より順次メルマガや情報媒体にてご案内いたします。

会社概要

社名：株式会社カピオン

住所：〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6 5F KS-F

本社：〒640-8322 和歌山市秋月198-14

電話：03-6869-0866（平日午前10時～午後5時）

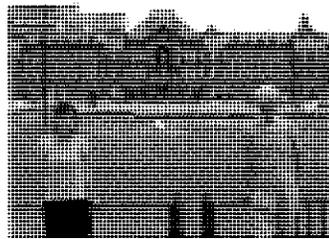
メールアドレス：k2a0pli4on@kapion.net

事業内容：スタートアップに向けた

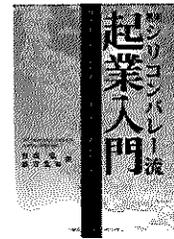
資金調達への準備SULプログラムの提供

代表：曾我弘・能登左知 設立：2011年12月

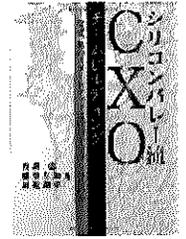
HP：www.kapion.net



写真：能登・曾我（左から）



～投資を引き出すための
ビジネスプラン作成ガイド～



～なぜ、あのスタートアップは
投資を受けられたのか～

～ベンチャーニュース（コラム）から～

定期的にVECから発信しておりますコラムの中から今回「ドローン規制」についてご紹介いたします。他のニュースリリースなども是非ご覧頂きご活用のごお願い申し上げます。

※2016年4月27日 「ドローン規制」 VEC理事長 市川 隆治

4月20～22日に幕張メッセで開催された（一社）日本能率協会主催の「国際ドローン展」に足を運んでみた。会場にはドローンメーカーのブースのみならず、警備保障会社のドローンを活用した防犯システムのブースもあり、来場者で賑わっていた。実際にドローンを飛行させるデモンストレーションコーナーもあり、「ブーン」というドローン独特の飛行音で雰囲気盛り上げていた。

ドローンの弱点として風雨の影響と物資運搬手段とする場合の積載量の限界を考えていたが、最近のドローンは全天候型で、かつ、最大積載量30キロという大型機も登場し、空撮のみならず、水面に着水して水中撮影もできるものまであった。AIを活用すれば悪天候の中でも自ら判断して最適な飛行方法を見つけることができるという研究もなされている。ドローンメーカーからの相談を受け、ソリューションを提供するコンサルタント業務をこなす企業も既に出現しているということだ。

ドローンは単に空中を飛ぶだけのものではなく、いかに産業用やインフラ点検用、災害調査用等として実社会に活用していくかという段階に入ってきている。

ちょうど1年前、総理官邸の屋上に黒塗りのドローンが不時着して世間を騒がせたが、そういうことのないようにいかに規制をかけるのかも大きな課題である。会場では特別講演の中に国土交通省と総務省の担当課長による航空法及び電波法関係のドローン規制についての説明があった。特に前者については椅子が足らずに大勢の立ち見参加者が出るほどの関心の深さがあった。

それぞれの規制の詳細は各省のホームページに譲るが、共通して感じられたのは、①リスクに応じた規制のかけ方を工夫すること（法律による許認可かガイドラインか業界の自主規制か等）、②関係省庁、メーカー、利用者等、幅広い構成員から成る官民協議会を立ち上げ、単に規制するだけでなく、新産業の創出や国民生活の質の向上という観点に配慮した進め方をしていること、③国際的なルールとの協調性を図っていることである。

考えてみればこのような取り組み方法は、経済産業省が長年我が国の産業を育成していき際に実施してきたやり方である。国土交通省や総務省といった規制官庁がこのような方法論を取り始めたことは評価に値する。実は同じようなことが労働行政にも言える。数年前に職業安定局の派遣・有期労働対策部の中に民間人材サービス推進室が設けられたのである。これも規制一辺倒からいかに民間の人材サービス産業を育成していくかという全く新しい政策観点を取り入れたものである。もちろんこうした取り組みが成功するかどうかは何年か後に検証してみるしかないが、とにかく政策立案の方向性に変化が見られることに対しては評価したい。

規制の国際協調も重要である。これからのベンチャーは国内市場だけを狙うのではなく最初からグローバル市場に打って出るborn globalという観点が必要であるとは最近日本のベンチャー関係の学者から出ている掛け声である。その際に国によって規制が異なるようでは困るのである。

総理官邸の事件からわずか1年で関係省庁の取組がここまで進んできたのは大いに評価していいのではないだろうか。大地震に際して寸断された道路を尻目にドローンが必要物資を集積所から避難所に届けることができる日ももうすぐだ。

～VEC関西より～

・下條会長はVEC創業時からVEC設立にかかわられ、多分小川会長や私などはそのあと交流会に参加し始めたことと記憶しています。六甲山の山小屋で夜を徹して語り明かした懐かしい思い出です。浜松で東西のメンバーが集まり討論したこともありました。当社もVECの債務保証を戴き、半導体風速計の開発を行い今は別会社にはありますが今でも風速センサーとして各方面にご利用いただいています。（本田）

・くまモンが堺筋本町のアンテナショップに来ると情報を頂き会いに行って来ました！最初は写真だけでもと思っていたのですが、ハグができるのと事！50名くらい並んでいましたが私もその一人となりました。ハグして感極まり涙ぐまれる方々もおられました。私も「熊本が早く復興出来るのを祈ってます！」と。大分県に私の両親の実家があるので他人事ではありませんでした。（藤本）

・以前の職場に勤務していた時代、新入行員リーダーをしており当時新入生で私が指導した女性と久しぶりに会う機会がありました。現在、彼女は20数名の部下を持つ女性役職となりバリバリ働く企業戦士となっております。

お互いの近況など話しながら私を「先輩」と未だに呼ぶかわいい後輩が企業の女性リーダーとなったことに私自身も何故だか満足感でいっぱいでした。（濱本）

・皆様もご承知のとおり株式会社フジキン小川会長が春の叙勲を受章されました。日頃何かとお世話になっておりますVECといたしまして、その功績に心から御祝い申し上げます。カピオン様は日本の高校生に起業家マインドを育成のため新企画を計画されております。ご注目下さい。（澤村）

<交流会の予定>

平成28年7月4日(月)・鹿野工商総合区創研、鹿鳴温泉酒店
台湾紅烏龍茶の創業者 潘 永豊 様
・台東県立豊田国民中学(台湾)元校長
國立編譯館英語教科書 編審委員、
台東縣政府聯外語文 顧問 林 哲次 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



暮れなずむバンコクにおける日本の学生たちの輝きと憂い



過日2月に、学生を引率して久々バンコクに滞在した。学生たちは、時間を惜しんで、昼夜問わず魅惑の刺激的なバンコクの街角を歩き回っていたが、私はホテルの部屋にこもり、時折ホテルの周囲を散策するだけで十分満足であった。タイ・バンコクとの付き合いは、すでに四半世紀にもなる。その当時の高度成長期の欲望が渦巻く喧騒とギラギラした高揚感ある熱波は、いまやすっかり落ち着いた風情になってしまった。新興の新中間層も厚みを増し、所得と消費拡大の好循環は定着し、最近では発展地上国特有の生の充実したエネルギーも影を潜めてしまった。私もバンコクの街も、知らない間に随分成熟化したのかもしれない。1997年7月には、パーツ暴落に端を発したバブル経済の崩壊し、それに連なる金融・銀行危機による実体経済の国家的危機状態の最中に、私は留学した経験をもつ。それだけに、その後のV字型回復路線、今日のASEAN経済共同体形成に至る成長振りをみるにつけ、タイ・バンコクの人々の暮らしの落ち着きと成熟化を感じざるを得ない。2006年9月の軍事クーデタ以後の、タクシン派VS反タクシン派のいまだ終わらないタイの政争は、タイが確実に知恵を出し合い、自ら抱える国の行方に関わる根本的な問題に妥協点を見出す調整の局面に入ったという意味でも、タイは成長と同時に成熟化の道を歩みつつある。

あれやこれや、ホテルの一室に籠って考えていても、やはり暮れなずむバンコクともなれば、私の心身も自然にテンションがあがり、これから夜の部が始まるという高揚感でいっぱいになる。直射日光が強烈の昼の部から一転して、夜の部ともなればそれぞれ思い思いに欲望を解放させ思うぞんぶん至福の時を楽しむというのが、タイ・バンコクの流儀であり作法である。だから、昼夜がぼやけるグラジュエートする夕暮れ時あたり、各方面へ流れ込む浮き足立つ人並みをみるにつけ、私の心身もお祭り騒ぎよろしく高ぶる。私の場合は、昼の部はタイ料理を食していても、夜の部ともなれば、郷愁を誘う居酒屋と相場が決まっている。タイブランドの焼酎にマナオ（タイ産小粒レモン）をふんだんに入れ、タイ産の枝豆や焼き鳥を肴に、熱帯の昼間蓄積された気だるさを吹き飛ばすかのごとく、暑気払いするのを楽しみとしている。学生たちも、少々無軌道気味に若者にふさわしいエネルギーを夜の世界で発散させているにちがいない。とかくバンコクの夜の部は、日本にはない心地の良い自由な空気感が漂っている。ハレの日に、「常軌を逸した」生のエネルギーを一挙に蕩尽しながら、バンコクの街角で、今の日本では死語となりつつある青春を謳歌したことは想像に難くない。

それで帰国後、学生たちにタイ・バンコクの印象を聞いたところ、ある学生から「タイはFreedom（自由）」という声が威勢よく挙がった。他の学生からは、「自由の空気感」が違うと言葉を絞り出し言われた。他の多くの学生たちも、ほぼ同じ印象で「タイの自由さ」、その逆に「日本の生きづらさ」を語り始めた。こうした学生たちの意見や感想を聞くにつけ、私自身、それだけで、今回のあまりにも気ままで気軽な研修旅行は、「タイを通して日本を考える」という観点からは大成功だと素直に感じた。

学生たちが感じたタイの「自由さ」は、一過性の短期滞在者の旅の恥のかき捨てる的なものでないということが重要である。学生たちからみれば、日本は本当に生きづらく、「憂鬱の日本」で暮らす自分を発見・再発見し、将来日本の社会で生きることのしんどさや辛さを確実に感じ取ったことが重要なのである。

自由主義を標榜する日本の国が、どうして生きづらく不自由な社会になってしまったのであろうか？それには、さまざまな要因や背景があることはたしかである。そこには、高度成長期に確立された中流志向の安定的な「世間並」の生き方、その実態は現在ほとんど崩壊し底が抜けている状況にもかかわらず、空洞化した「世間的価値観」を受け入れさせ、学生たちを、「常軌を逸してはならず」という将来の時間軸に沿って追い立て強制する「不自由さ」であり「生きづらさ」が確かにある。しかも、個人が自己責任のもとで、バラバラに寸断され、人と人との「絆」や「つながり」が注目される社会に、何を支えに希望を見出して生きていけばよいのか、今後深化する根無し草が漂うような心の安らぎが得られない刹那的生活に、学生たちが心底「Freedom」を感じるはずがない。

最後にタイに一言ふれておこう。タイは、日本と同様「自由主義国家」である。しかし、「わたしたち」タイ人は、と語れる「公的価値」（国王・仏教・民族の三位一体）を「生き方」の礎にして、これを相互連帯の「絆」にして大切に遵守し、それ以外の私的領域においては、様々な個人の生き方を容認（相互不干渉）する社会を一貫して維持している。

現在の経済的に下り坂の「成熟化」する日本において、次世代を生きる学生たちが将来輝きを放つためにも、多様な個性あふれる「自由さ」を満喫でき、多少「常軌を逸する」生き方をも容認し支援する社会を柔軟に構想することが強く求められている。このことは、今後急速に膨らむ深刻化する「下流老人」問題と表裏一体である。緩やかな成熟社会にふさわしい日本版イノベーションを急がねばならない！まだまだタイから学ぶことは多い。

阪南大学大学院企業情報科・経済学部教授 石井 雄二

毎日自然療法で体質改善を！医療機器携帯型電気お灸「ながら灸」

～血行促進、基礎体温向上が健康をつくるカギ～

2011年創業以来VEC交流会に参加させていただき皆様のご支援を受けながら開発した携帯型電気温灸器『ながら灸』が2015年に管理医療機器としての認証を受けました。

温熱部を直接肌に接触させてお灸をする直接灸だけでなく、遠赤外線が肌に接触させずにソフトにお灸をする間接灸ができる今までにない新しいタイプの電気お灸です。

昨年の新価値創造展東京と今年2月のメディカルジャパン2016などの展示会に出展し国内外の多くの方に評価していただきました。

「薬は即効性があるけれど、副作用が心配！！」

「病院や治療院に通う時間、運動する時間がない！！」

「血行促進するお灸が体に良いのは知っているけど火傷が怖い！！」

『ながら灸』はこのような方に使っていただきたい医療機器です。火を使わず、煙が出ないのももちろんのこと熱の力のみで血行促進するので、副作用がほとんどありません。

人間が本来持っている自然治癒力を活性化させホメオスタシス（生体恒常性保持機能）を働かせる体にやさしい治療法です。毎日使う事で、免疫力を高め、基礎体温を向上させ病気になりにくい体づくりができます。現在では、重病を患った後の再発予防や不妊に悩む方の血流改善、在宅訪問鍼灸を中心にご愛用いただいています。

『ながら灸』 5つのポイント

- ① 副作用が極めて少ない—温熱治療では、熱の力のみで血行促進するので副作用の心配がほとんどありません。
- ② 便利で簡単—スイッチひとつで治療ができ、コンパクトなので持ち運びにも便利です。
- ③ 本格的な治療効果—灸師の療術である肌に直接触れない間接灸、繰り返しお灸をすることで肌への負担を減らし効果を最大限にする多壮灸を再現しました
- ④ いつでもどこでも治療ができる—火を使わず煙も出ないので、施設や出張先などで安心してお使いいただけます。
- ⑤ ランニングコストが安い—充電電池を内蔵しており充電電気代だけで繰り返し治療ができます。

<裏面に続く>

なぜ雑貨としての健康器具ではなく、医療機器であることにこだわったのか？

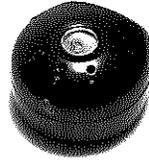
ちゃんと理由があります。

① 薬機法（旧薬事法）で医学的な効果・効能が表示できる（健康機器では医学的な効果はうたえず誇大広告をすると薬機法違反になる）

② 品質・有効性・安全性が確保されている。

医療機器の認証取得は簡単なものではなく、多くの年月と費用がかかりますが、効果効能が保証され安心して治療してもらえることが大切だと考えました。今後も『ながら灸』で開発した技術をプラットフォームにしてウェアラブル&トリート&バイタルセンシングを軸に新たな医療機器を開発していきます。

吉村メディカル福祉株式会社 代表取締役 吉村一成
〒573-1103 大阪府枚方市楠葉野田2丁目30-10
TEL 072-807-3525/FAX 072-855-5438
HP <http://www.ymwc.co.jp>
※製品に関心をお持ちの方はご一報下さい



温灸器 YMW-ONQ001 「ながら灸」
医療機器認証番号 226AKBZX66000

みなさん、笑いを忘れていませんか？ 「笑う門には福来る！」

激しく揺れ動く時代の中で、悩み、不安、恐れ、心配事、ストレスを抱え、うつ病などになって、社会から脱落しないように。もう一度、「笑い」を取り戻しましょう。

「笑い」はこころの健康の源です。笑いや笑顔がもたらす効果は想像以上にすごいですよ。

1. 弟の死を乗り越えて - 苦しい時にこそ「にもかかわらず笑う」

昨年暮れ、わたしは弟をガンで亡くしました。その3日後、「笑いのセミナー」をする予定になっていて、多くの方から参加の予約を頂いており、止めるわけには行きません。こころのうちを隠して、ニコニコ笑って「笑いの話」をしました。そういうこころの苦しい時にも、いや苦しい時にこそ「にもかかわらず笑う」ことが大切です。

2. わたしのキャッチフレーズ - 人と接する時に心掛けていること - 「謙虚、誠実、笑顔」

かつてのわたしは、上から目線でひとと接する癖が付いていました。だから対人関係はなかなか上手く行きません。ある時、ある人からこのことを指摘されました。わたしはハット気が付きました。それからこの3つの言葉をいつも念頭において人と接するように心掛けています。特に「笑顔」を大切にしています。

3. 大阪商人と笑い - 大阪の商人で商売の上手な方は、常に笑いのこころを持っておられます。むかしから船場で言われている有名なことばがあります。

商は笑にして、勝なり・笑が昇ずれば、商は勝なり・笑が省ずれば、商は小なり・これに加えて、商が小になれば、やがて商は消になると言われています。昨今のビジネスは、利益中心の商売になり、ギスギスしたやりとりになって、笑いを忘れてしまっているのではないのでしょうか。そこには本当の商売はありません。

4. 笑いで病気が治る - なんばグランド花月での実験 - なんば花月で、ガン患者さんなどに、3時間、大笑いをしてもらいました。

そうするとなんと、ガン細胞をやっつけるナチュラルキラー細胞が出ていることが判りました。笑うことによって、病気さえも治すことが出来るのですよ。

5. わらいは「は、ひ、ふ、へ、ほ」で表せます。

さあ みなさん！声を出して、「ほっほっほ、へっへっへ、ふっふっふ、ひっひっひ、そして最後に大きく、はっはっは！」とお腹の底から大笑いをしましょう！！



株式会社セールスレップコラボ 代表取締役
アイこころ心理学研究所 所長 堀部 武司

～労務トピックス～

学生アルバイトは意外と安易に採用している場合もあります。専門家にお伺いしましたので、その一部をご紹介します。

「学生アルバイトのトラブルQ&A」

Q. アルバイトに時給や勤務時間などの働く条件について「募集広告に書いてあるとおり。」と説明した。

A. 書面により交付して下さい。（明示内容）①就業期間 ②仕事の内容・働く場所 ③勤務時間・休日 ④時給

Q. 1日6～8時間働くアルバイトには、休憩時間は15分与えればよい。

A. アルバイトであっても、働く時間が6時間を越え8時間以下の場合、少なくとも45分、8時間超えた場合1時間の休憩を与えねばなりません。

Q. 決まった勤務時間の前後に、オーナーや店長の指示で開店準備や後片付けをした時間は、その分時給は支払わなくてもよい。

A. オーナーや上司の指示により仕事をする場合は、その時間に対する時給の支払が必要となります。

Q. アルバイトには残業代の支払いは必要ない。

A. 1日8時間、1週40時間を越えて働いた場合は、残業代の支払いは必要です。

Q. アルバイトに有給休暇はない。

A. アルバイトでも有給がとれる場合があります。

Q. 学生アルバイトも当然に雇用保険に加入する必要がある。

A. 昼間学生は雇用保険の適用除外のため、加入の必要はありません。※夜間学生は加入しなければなりません。

◆学生アルバイトにも当然に労働基準法等の適用対象となります。労働時間・休憩・休日・賃金の支払等の取扱いには充分にご注意ください

～VEC関西より～

・先日、滋賀県天台宗の寺、最乗院で恒例の座禅の会を企画しました。20数名、まじめに座って「無」になって来ました。でも中には終わってからが楽しみにしている方がいます。いつも温泉に浸かって、その後、居酒屋で一杯やるからです。どちらがメインなのでしょうね。（本田）

・「梅の実が一杯できてるので梅干しか梅酒でも作らない〜？」と、ご近所と友人から連絡がたて続きに入り（もちろん断ることなく頂きました）我が家では梅酒、梅ジュース、梅ジャムと定番ですが作り終えました！申年の梅は縁起が良いとか・・・梅酒の出来上がりを楽しみます！（藤本）

・先日、女子社員の方と毎日出勤に着るスーツの色の件でお話しがありました。持っているスーツの色は殆どがグレーか黒とか。色目も濃く見た目にも全体的に重く感じます。「同じグレーでも明るめのグレーに変えただけでもこれ

から暑くなるので、清々しく軽やかに見えるよ」とアドバイス。色ひとつでその人の雰囲気も変わります。それから彼女は早速その色のスーツを買いに行ったらしいです。（濱本）

・7月はVECの創立月で41周年を迎えます。それに相応しいパワフルなメッセージを皆様から頂き感謝しております。世間では色々なニュースが飛び交っていますが明るく・ベンチャー精神一杯の記事満載を目指しております。ご協力よろしくお願い致します。（澤村）

<交流会の予定>

例年どおり8月は開催ございません。

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293

**「なぜイスラエルからイノベーションが生まれるのか？」****「現地起業家レポート」**

スタートアップやイノベーションという言葉聞いてイメージする国はどこでしょうか？今回は、数々のイノベーションを生み出し、日本でも徐々に注目を集め始めているスタートアップ大国イスラエルについてご紹介させていただきます。

私は2014年よりイスラエルに渡り、日本人として初めてVCからの支援を受けて現地で会社を起ち上げました。スタートアップとベンチャー企業はほぼ同義と言ってもいいかもしれませんが、イスラエルではスタートアップという言葉が日常に浸透しており仰々しい感じがありません。空港から都心のテルアビブに向かうタクシーの中で運転手と会話すれば、「イスラエルには何をしに？」「ここでスタートアップをやっているんです。」「そうか！イスラエルはスタートアップの国だからな！！」という具合に。

さらに、就職先としてスタートアップを選ぶことはもちろん、自分でスタートアップを起ち上げるということも何ら珍しいことではありません。例えば、今一緒に働いているエンジニア達は大学卒業後すぐフルタイムで参画してくれましたし、先日は12歳の起業家・CEOと話をしたくらいです。また、木曜日の夜に（イスラエルはユダヤ暦に則り休日が金土なので木曜日の夜が日本で言う金曜日の夜）、バーに行き、近くにいる人と話したならば感覚的に6割くらいが何かしらの形でスタートアップビジネスに関わっています。

そんなイスラエルが、世界からどのように評価され、どういったイノベーションを生み出しているのかについて見ていきましょう。まず、一人当たりのスタートアップ投資額が群を抜いて世界一です。2014年の年間のスタートアップ投資額は約4,000億円と総額で日本の倍以上、国民一人当たりでは約30倍となっています。特定の領域では、グローバルでトップのスタートアップ集積地シリコンバレーをも凌ぐという点から考えるとその凄さがお分かりいただけるでしょう。このように多額の投資を集め続けているということは、高いパフォーマンスでしっかりとリターンを出しているということに他なりません。これまで生み出してきたイノベーションの例をご紹介しますと、プチトマト、USBメモリ、ファイアーウォール、カプセル型内視鏡、自動車の衝突防止システム等枚挙に暇がありませんが、イスラエルの発明がコアにあるとは知らずに日常的に触れているものが多いのではないのでしょうか。

では、なぜイスラエルから多くのイノベティブなスタートアップが生まれているのでしょうか？その説明をする際絶対に外せないのが産学官（軍）が一体となったスタートアップエコシステムについてです。1990年代初頭Yozma Programというスタートアップ投資を促進する政策が大きな成功を収めました。この政策は、政府が大きなインセンティブを与えることで、グローバルに成果を上げているVCや事業会社をイスラエル国内に誘致し、スタートアップ投資を促すというものでした。軍隊や大学等の研究機関での技術シーズを投資家と連携して上手く事業化し、成果を挙げる企業が数多く生まれ、2016年時点でのNASDAQ上場企業数は世界第4位の約80社で、国民一人当たりで言うと米国を除く国の中ではトップとなっています。スタートアップ政策を全面に打ち出して僅か25年で、人口約800万人の小国が世界に名を馳せるスタートアップ大国へと成長したのです。

そんなイスラエルの地で私が仲間と共に現在行っている事業は、スタートアップと投資家の間に存在する情報ギャップを解消することを目的とした知的エージェントをコアとするイノベーションプラットフォームMillion Timesの開発・運営です。シリコンバレーやイスラエルで生まれたスタートアップエコシステムを科学し、最先端技術を駆使して世界中から変革を起こすスタートアップを次々と生み出す「Startup Nation 2.0」を実現することが我々のビジョンです。また、その一部を形成する活動として、現地のネットワークを活かしたイスラエルスタートアップと日系大手企業との連携支援、動画とWEBプラットフォームを活用したピッチイベントの開催も行い、実際の連携・投資事例を生み出しています。

私は神戸で生まれ育ち、学生時代を大阪と京都で過ごした関西人なので、現在の事業を通して、人々が生き活きと挑戦できる社会を創り、世界中の人々を笑顔にできるような価値を生み出し、地元に戻りたいと考えております。余談ではありますが、イスラエル人は関西人と似て世話焼きで親切でフレンドリーな人が多いです。またイスラエルの都市テルアビブは地中海に面したリゾート地、エルサレムではユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地として歴史を感じることができ、死海でのんびり浮かぶこともできるという、想像以上に素敵な土地で観光にもお勧めですので、是非一度お越しください。

**<寺田 彼日 プロフィール>**

2014年日本人初のイスラエル現地スタートアップAniwoを設立する。

イノベーションプラットフォームMillion Timesの開発・運営を通して革新的価値創出に挑む。

日本-イスラエル間では10社以上の投資・連携の実現に貢献。

京都大学大学院経営管理理学部卒 (MBA)、大阪大学経済学部卒、兵庫県神戸市出身

あれから何年たちましたか**— 『世界のウチナンチュ（沖縄出身の人）大会』で再会する—**

観光先進国を目指している日本は、かつてのYOKOSO JAPAN(ようこそジャパン、「現在は『Japan. Endless Discovery』)の下、2020年のオリンピックまでには、海外からの来日客を4,000万人とすることを目標に、「気候」、「自然」、「文化」および「食」という4つのキーワードで、魅力あるコンテンツ作り日々努力しているところですが、観光立県の一つである、沖縄県でも『ビジットおきなわ計画』の施策を基に、海外からのお客様に対して、『Be. Okinawa』というキャッチフレーズ（『行動を呼び掛ける』、『ワクワク感』のイメージが込められているとのこと）や、こちらにお越しになる国内外の方々に対して観光業の関係者だけでなく、みんなで「おもてなし」の心で迎え入れましょうということで、『ウェルカムんちゅになろう』（welcome人）というキャンペーンが行われています。

沖縄県の発表では、昨年度の入域観光客が約794万人で、前年比10%以上の増加となっており、それらの要因として、「年度全体として、円安傾向に伴う国内および訪日旅行需要増」、「LCC等海外航空路線の拡張、クルーズ船の増加」と分析されています。イギリスのEU離脱決定や円高などの影響で今後の動向が今後気になるところですが、沖縄県としても観光客数1,000万人を目標としていて、先のソフト面の他にハード面（那覇空港滑走路増設・クルーズ船の複数寄港地の検討および各観光地へのアクセス道路整備）の整備を進めているところです。

さて、私の職場の上空は航空機の航路になっていて、今の季節は、「沖縄は楽しかったですか？ また来てくださいね〜。」と見送り、逆に冬になると、「ようこそ沖縄へ。楽しんでいってください」とお迎えする感じとなるが多くなります。沖縄から離れていく人々の中には当然沖縄出身もいらっしゃるわけで、島から離れる期間もそれぞれですが、それぞれの思いを胸に旅立っていきと思います。今から約120年前の1899年には、沖縄の将来を想う山久三氏（「いざ行かむ 吾等の家は五大洲」の言葉を残し、のちに『移民の父』と呼ばれる）が、土地狭隘や人口増等の対策として、海外移民を企画・奮闘し、那覇の港から20数名をハワイに送り出しました。



(山久三氏)

その後国の政策等により、戦前・戦後、移民先も北米、南米、アジア地域等と移民は続き、現在では39万人以上の沖縄県系の方々が、ブラジルの（約18.7万人）をはじめアメリカ合衆国（約9.7万人）、ペルー（約6.9万人）など世界各地で頑張っています。移民の成功は、沖縄県の経済発展にも貢献しました。特に戦後の復興に際し、沖縄県系人の支援が支えの一つになりました。そのような状況下で、「世界に雄飛し、活躍しているウチナンチュは、沖縄の貴重な人的資源として、これらの財産を経済、文化、学術等の各分野において沖縄を要として結び付け有機的に機能させるためのネットワークを確立する」ことを目的に、『世界のウチナンチュ大会』のイベントが、来る10月26日の前夜祭に始まり、10月27日～30日を本大会として、那覇を主会場に開催されます。

1990年の第1回大会から5年ごとに開催（第3回は2001年）され、今回で第6回を迎えます。海外からは、沖縄2世・3世、また沖縄にゆかりのある方など、5,000名規模の参加（里帰り）が予定されています。会期中はこれまでの移民にまつわる企画展、伝統芸能祭、世界各地のワールドバザールが開催されます。また、それぞれの出身地である市町村においても、歓迎レセプションが予定されており、親戚や友人との再会を喜びあいます。一般の方々も、楽しめるイベントですので、ぜひお越しください。

(沖縄県在住 城間 保)

～就職を目指す留学生たちとの奮闘の日々～

私は留学生の専門学校でビジネスマナーの非常勤講師をしています。学生の国籍はベトナム、中国、ネパール、台湾、韓国、インドネシア、スリランカなど様々です。彼らは卒業後、日本で就職するか帰国して日系企業で働くことを目標に勉強しています。そのために日本式のビジネスマナーを身につけることが必要不可欠です。しかし、入学してきた時には「ビジネスマナー」という言葉すら知りません。ですから、まず「ビジネスマナー」とは何か？なぜ大切なのか？というところから教えなければなりません。全員、日本語の学習経験はありますが、日本語学校などでは習わない言葉やビジネス用語が出てくるので、言葉の説明もしなければなりません。中華圏の学生は見れば意味はある程度わかります。しかし、現在は半数ぐらいがベトナム人で、続いて多いのはネパール人です。私が担当している学生は約100名ですが、そのうち中華圏の学生は10名程度です。つまり、ほとんどの学生は漢字が苦手なのです。そのため、絵を描いたり吉本新喜劇のようにオーバーアクション付きで声を張り上げて説明をしています。

また日本人にとっては当たり前のことが理解できなかつたり、逆に日本人からすると不思議に思う行動をとることもあります。私は中国での留学経験があるので、それは文化の違いで特別なことではないと理解できます。しかし、ここは日本なので日本の文化や習慣を受け入れてもらわなければなりません。ビジネスマナーも正に日本の文化の一つです。

半期が終わる時に、学生たちには感想を書いてもらいます。「先生のおかげでビジネスマナーが何かわかりました。ありがとうございます。とても大切だと思います。これからも頑張って勉強します。よろしくお願いします。」などと書かれてあります。「日本人は細かすぎて面倒くさい」と言いながらも、それを受け入れて身につけようと前向きに取り組んでいる姿勢がその文章から読み取れて、よかったとホッとする気持ちと嬉しい気持ちで胸がいっぱいになります。

私が講師をさせて頂いている学校は就職率がほぼ100%です。もちろん、学生の能力は大切ですが、最初に問われるのはマナーです。企業に問い合わせをする時の電話のかけ方から面接での態度がとても重要になります。それを教えるのも私の仕事です。責任重大なので、毎回全身全霊をかけて挑んでいます。



すみれナレッジ 岡部佳子 <https://sumire-kl.com/>

～ITとおカネのお話～

ここ最近VEC関西支部様にお邪魔しております、株式会社もも、富原と申します。よく社名の由来を聞かれるのですが、ここではマア・・・

弊社はITコンサルティングから、企業内の業務システム・Webサイト・スマートフォンアプリの提供などを行っています。みなさま“IT”と聞くと「あの金食い虫か!」「ワシ関係ないわ!」「わからん!お前の話はわからん!」となってしまうのですが・・・

せっかくなので、コンピュータの話ではなく、みなさまの企業での“ITとおカネ”について少しお話ししたいと思います。

まず、みなさまは売上高に対してIT予算をどれぐらい計上しているのでしょうか？調査によると、業種ごとに異なるものの、おおむね0.5～0.8%という結果が出ています。もちろん平均であればいいという訳ではありませんが、おおまかな目安にはなります。ただし、金融業は突出しており7%前後で、いかにITが重要な位置を占めているかが伺えます。業種により高低はありますが、その他はだいたい0.7%前後と捉えてください。もちろん、自社のIT投資が平均より高かったとしても、それを活かしていれば問題はありません。

しかし、そのIT投資の内訳が本当に“IT投資”なのかという点も重要です。

例えば、ネットで販売したらいっぱい売れた!というケースを考えます。確かにITのおかげで売れたようには見えます。ところがこのケースでは、販売チャネルを増やしたことが売上増加につながったのであり、いわゆるITの活用とは少し違います。ネットでの広告宣伝費などもそうですね。業務効率化や品質向上のためのIT投資と、このような販路拡大をまとめて“IT投資”としてしまうのは少し危険です。販路拡大プロジェクトへの投資は、プロジェクト別に収益を算出して効果測定すべきだからです。

経営判断では、そういった投資をそぎ落とすというわけで、IT投資額を最終的に決定します。ここで、一般的にIT投資は5年程度の計画で行いますが、5年間で初期投資と同額以上の金額が運用コストとしてかかってくることに注意してください。1億円のシステム構築では、5年でトータル2億円、その間の環境変化への対応費がまた別にかかる、というようなイメージを持っていただければいいかと思います。

ざっと概論だけになりましたが、これらを踏まえて、みなさまの企業のIT投資額を見つめなおしていただければ幸いです。

株式会社もも 代表取締役 富原 祐 <http://www.kabumomo.com>

業種	調査社数	売上高 IT投資比 (%)
全体	763	0.75
建築・ 土木	68	0.43
素材 製造	163	0.63
機械 器具 製造	202	0.77
商社・ 流通	119	0.59
金融	37	7.40
社会 インフラ	56	0.98
サービス	117	0.84

～VEC関西より～

・VECの関西支部長を拝命してから20数年を超えと思いますが、最近ご参加いただく方々はいつも50人を超えるようになってきました。また、だんだん国際化し内容も多様化し今月号の「てんこもり」もイスラエル、沖縄、ベトナム、またITのお話しなど。VECの交流会はほんとに新しい情報が飛び交っています。ビジネスチャンスやアイデアが、そこいら中に転がっています。情報に貪欲くらい付き、大いに利用、発展されることを願っています。(本田)

・毎年、夏の高校野球大会が楽しみです(春も好きですが・・・)。暑い甲子園球場のアルプススタンド応援団の近くで知らない者同士でも一緒になって応援し、かち割り氷片手にと・・・よく球場に行きました。今年で休部となったPL学園野球部、最後の大阪大会感動ものでした!PLの人文字好きでした。残念です。復活を願っています。(藤本)

・以前から楽しみにしていた「日本の色のルーツ」のセミナーに参加してきました。やはりルーツとなると自然・神道・仏教・陰陽五行説・禅などの勉強

から色の変遷の意味の深さを学び日本古代から現代アートに至るまで興味深い講義でした。日本のわび、さびから日本人としての美意識に改めて感激しました。(濱本)

・1100年を越えて続けられている祇園祭。7月17日の人出が19万人という中で初めて巡行に参加し袴姿で約2時間半の歩きでありましたが神事を全う出来ました。祭りを支えているのは人・物・金と結束力で、まさに企業経営と共通していることを強く感じました。8月号に相応しい熱いメッセージを皆様から頂きました。猛暑の候ご自愛願います。(澤村)

<交流会の予定>

平成28年9月28日(水) (一社) 全日本らくらくピアノ協会

代表理事 光畑 浩美 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



～関西の新規上場最近事情～

東京証券取引所 大阪オフィス 上場推進部 課長 岡野 豊様から最近の関西IPO事情などをお伺い致しました。新規上場企業が増加して関西地区の活性化を図るため日頃ご尽力頂いておりますので是非お気軽にご相談されては如何でしょうか。

(場所は北浜一丁目の旧大阪証券取引所のビル内です)

1. 関西の企業で上場 (IPO) 数は増加していますか。

2015年の年間IPO社数は98社 (前年比18社増) ですが、うち関西は9社で東京が67社、東京以外の関東が5社と関東地区が多くなっています。

2. 今年1年間の上場予定企業数はどれ位ですか。その内関西はどれ位ですか。

2016年6月までのIPO社数は42社のうち関西は5社、東京は22社となっています。今年の年間見込数は全体で昨年並程度、うち関西は10社前後に落ち着くのではないかと思います。

3. 最近の上場済企業の業種はどのようですか。

2013年～2016年6月までのIPO企業業種のうち東証一部、二部では業種の偏りはほとんどなく、マザーズは「情報・通信業」や「サービス業」が多い。またJASDAQでは「小売業」が多くなっています。関西はIT関係が少なく、比較的メーカーが多いです。

4. 今後上場ルールの変更等はあるのでしょうか。

マザーズ、本則市場の規則改正を2011、12年に行っており、マザーズの成長性については、従来の定量的な基準に加え、主幹事証券による判断も追加となりました。なお、内部統制報告制度においては、新規上場後監査証明が3年間猶予されています。

5. 大阪取引所の上場サポート状況や新商品提供動向等をお教え下さい。

・TOKYO PRO Marketについて

機関投資家等のプロの投資家向けの市場として2009年に設立。投資家をプロの投資家に限定することで、株主数・業績・時価総額などの形式基準がない自由度の高い市場となっている。ただ、流動性が低く、志向する会社が少なかったが、信用度を高め営業力を強化したい会社が上場するようになってきた。(今年7月7日現在16社が上場中)

・取引所では従来どおりアドバイスや研修会などにより上場をサポート。また不動産投信 (J-REIT) や指標連動型商品 (ETF)、インフラファンドなどの上場プロモーション・上場支援をサポートするなど活性化を図っています。



それでも歴史は繰り返すか 2

(アベクロノミクスはミッドウェーを経ていよいよインパル作戦突入へ 2020年からみるアベクロノミクス) ～ 前編

時は2020年の暮れ、高揚した安倍総理の開会演説でスタートし、国民を熱狂させた東京オリンピックも無事終わったが、2013年にスタートし7年目に入ったアベクロノミクス (実態は安倍総理と黒田日銀総裁の二人芝居) もじわじわと忍びよる日本全体に覆われ始めた脱力感に引きずられ始め、いよいよその総決算の場 (言いかえればバブル崩壊後の失われた日本の30年を支えた1000兆の国債制度の行き詰まり) を迎えようとしている。異次元金融緩和と称し日銀が買い取った国債残高も800兆 (2016年6月末残373兆、2013年に80兆に枠拡大した後、財務省発表では長期国債の購入スピードは110兆と毎年10兆以上加速的に増やしており、このスピードは緩まないだろう。) 前後に膨れ上がるだろう。残りの国債も生保、郵貯、共済等に限られ、事実上いよいよ、国債の全額日銀移転が狙いに乗り始める。結局、国債の暴落は防げたが、引き受け手は無くなり長期金利の急上昇を招き、結果的に国債の発行停止状態に追い込まれた。

今 (2020年) して思えばその意味でも2016年は重要な分岐点となった年だったのだろう。

太平洋歴史におけるミッドウェーと同じでその後の情勢変化の大きな分岐点となった。期せずして、最近TVでも「ミッドウェー敗戦の分析」として取り上げられるようになった。

- ① アベクロノミクスも限界論が囁かれ始め、再点火するため米経済学者の力を借り始めた。
- ② 7月の金融決定会合にみられるように、黒田総裁の腰が引け出した。
- ③ 英のEU離脱が究極のポンド安政策と言われ出したように、日米中の通貨安戦争の火ぶたが切られた。

① アベノミクス第一弾を支えていたエール大経済学教授 浜田氏の大胆な金融緩和論も3年も経つが、一向にデフレマインドが解消されない中、急に日本の純資産350兆あるので国債は大丈夫だと国際擁護論に転じ出した。

安倍総理はアベノミクスの更に理論的補強をする為、ノーベル経済学者クルーグマンとスティグリッツ教授を財政諮問会議に呼び、消費増税延期の援護射撃をさせた。

極めつきは、バーナンキ元FRB議長を招聘し、ヘリコプターマネー論を日本にもちこませたことである。

何故、アベノミクス第二弾を点火させるために、わざわざアメリカの経済学者を頼りにしたのか。安倍総理も異次元金融緩和では日本の再成長はないと薄々感じているが、日本の最高経営者としては本音は絶対に吐けない。吐けばその場で国債市場は崩壊する (結局、日銀が全額引き取らざるを得ず、暴落はないが、結果的に長期金利は上昇する)。

しかし、次回衆議院選、総裁任期延長を勝ち取っても自ずと自分の任期はあと3～4年と出口を考えざるを得なくなる。そこで飛びついたので米経済学者であり、バーナキンに唱えるヘリコプターマネー論だったのである。この論は米の著名な経済学者ミルトン・フリードマンの考え方をベースにしており、財政赤字を中央銀行が直接ファイナンスすること以上に中央銀行が既発債を買い取る行為を中央銀行も政府の子会社なのだから、バランスシート上に永久無利子債を計上し政府債務の恒久的マネタゼイション (事実上の消却) をさせ、正当化することに真の狙いがある。但し書きがあり、節度を以って一部にとどめることと。そりゃそうだろうパーパー上で公的債務を消せるのだからこんな都合のいいことはない。しかしこれを部分的に成功させるには、国家による個人・法人金融資産の厳格な管理が必要とするとするエコノミストもいる。

そうなんです。マイナンバーなのです。2019年頃から銀行既設口座との事実上の強制リンクがスタートするであろう。しかし、かってジャパンパッシャー (日本たたき) と言われたクライド・プレストウィッツ氏のように、強すぎる日本を怖れたように弱すぎる日本は米国の国益にとって望ましくないと、明治維新、敗戦とその3番目の危機を憂いている。 <次号に続く>

大阪ベンチャー倶楽部代表 不動産鑑定士兼日本生産性本部認定経営コンサルタント 山口 孜

震災復興支援活動・新たな展開としてネパールへ

2011年3月に発生した東日本大震災を期に、復興支援活動に関わり始めました。ヒール・ザ・ワールド (HTW) の発足です。東洋医学を専門とする私の周りには様々な施術者や癒し技術を持つ人がいたので、協力を呼びかけ、チャリティーイベントを翌月(4月)から毎月25回にわたり実施しました。実はこのイベントは、出店者はもちろん、会場提供者を含む全ての関係者が無償(手弁当)で関わると言うものでしたが、出店者は延べ283名、スタッフは延べ181名、会場提供は10カ所に及びました。「日本はまだまだ捨てたもんじゃない!」と思いました。これらの人々と、震災に向き合う被災者の人々、そして全国各地から東北に集結したボランティアの人々から、今日に至るまでのモチベーションを頂いてきました。イベントの収益で施術者たちが東北へ行き、施術などで現地の人をささえる活動を5年にわたり継続しています。

震災発生から2年を境に、現地の状況に変化が見られ、ボランティアとしての関わり方が問われるようになりました。そこで私達が施術に行くばかりではなく、当事者自身が一歩踏み出し、何かに挑戦する動きを後押ししたいと「懸賞金プロジェクト」を立ち上げました。東北復興の為にアイデアを募り、優秀な3つのアイデアをVEC交流会で発表して頂きました。VECの皆さんを始め交流会に参加された皆さんにも投票に参加して頂き、TED x Tohokuさんを応援することが決まりました。当日ご後援頂きましたATACの梶原様の東北での活動のお話も、大変興味深いものでした。

2015年には、ネパールで震災が発生しました。国内のみでの活動経験しかありませんでしたので大きなチャレンジではありましたが、これまでの数年にわたる経験を生かし、少しでも役に立ちたいと準備を始めていました。その時、九州で大きな地震が発生しました。急遽3名が熊本へ赴き、ヘッドマッサージ、ハンドマッサージ、テーピングによる痛みのケアを実施しました。訪問先の状況を見守りながら、ネパールの支援計画を再開しました。

ネパールについてまずは色々知る為に、詳しい人を募ったところ、強力なメンバーが加わり、HTWがさらにパワーアップしました。調査を進めていくと、ネパールでは震災発生以前から物事がうまく機能していなかったこと、NGOを初めとするたくさんのボランティアが多角的な支援を展開していること、癒し以前に医療がそもそも充足していないことがわかりました。そのような状況で、私達が役に立てることは何か、新たな試行錯誤が始まりました。第一歩としてネパールとご縁の深い兵庫県の須磨寺さんで、4年ぶりにチャリティーイベントを実施させて頂くことになりました。10月2日(日)11時からです。お時間の許される方は、ぜひ遊びにいらして下さい。ネパールを始め活動に興味のある方にも、ぜひお知らせ下さい。

東洋医学サロンSHANTI 島中 恵美

*HTWの詳しい活動はこちらからもご覧いただけます。

<http://www.facebook.com/hisaichi.niyashi>

<ヒール・ザ・ワールドのあゆみ>

チャリティーイベント・癒しフェア(大阪) 2011年4月~2013年4月、25回(来場者数述べ約2000人)

癒しを届ける活動(東北)*調査を含む 2011年5~11月、7回

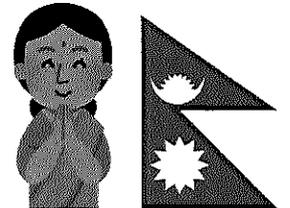
癒しを届ける活動(大阪、兵庫、奈良)*大阪に避難していた被災者を含む 2011年10月~2015年9月、6回

復興に関わるイベントへの支援 2011年、TEDxTohoku開催支援金 10万円

<ヒール・ザ・ワールドの今後の予定>

チャリティーイベント・癒しフェア(神戸・須磨寺) 2016年10月2日 11時~17時 入場無料

<https://www.facebook.com/events/1719456801675194/>



~ご存知でしたか?薬剤の海外持込には注意が必要です!!~

日本国内で流通している薬の中には安易に海外に持ち込めないものがあります。国によっては薬剤に対する捉え方や法律が異なるため、医師からの処方薬のみならず、風邪薬など薬局で購入できるOTC薬(Over The Counter:一般用医薬品)も注意が必要です。

■医療用麻薬…渡航前に在日大使館などで法規制について確認し、出国の2週間前までに住民届けを出している地方厚生(支)局麻薬取締り部に申請書を提出しなければなりません。

■睡眠薬…サイレース/ロヒプノールは強力な為米国への持込はできません。持込が判明すると犯罪行為として処罰されます。

■注射器と薬液…インシュリンやエピペン、インターフェロンなどの自己注射薬は、欧米諸国で没収されることは滅多にないと思われませんが、それ以外の国では保証はできません。予め当該大使館に相談し、さらに医師による英文の証明書を持参しましょう。

■総合感冒薬…ほとんどの総合感冒薬に含まれるリン酸ジヒドロコデインも麻薬の一種です。総合感冒薬を調べられるケースはほとんどありませんが、成分検査をされた場合は麻薬反応が陽性となる可能性があります。

いずれにせよ、リスクを避ける為に薬物携帯の証明となる医師発行の英文診断書を持参されることを強くおすすめします。荷物の紛失や、滞在中に薬を切らしてしまった場合も、それがあれば渡航先医療機関での処方が容易になります。また、緊急時に医療を受ける際の重要な情報源にもなります。薬品名は商品名ではなく、世界中で通用する一般名(generic name)で記載してあることが重要です。

(参考:JATA Communication 6月号)
アズトラベルサービス株式会社

.....
:VEC東京本部事務所が移転いたします

:9月5日(月)から下記新事務所へ移転いたしますので、よろしくごお願い申し上げます。お近くへお越しの際は是非お立ち寄りくださいませ。

:〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-3 フナトビル6階

:電話(代表):03-3230-8900 FAX:03-3230-1110
.....

~VEC関西より~

・8月21日の日曜日、近くの琵琶湖疎水に散歩に行きました。もう蝉の「つくつくほーし」が鳴いていました。川の淵はやはり涼しく釣りをしていたおじさんがいたので「今何が釣れるのですか?」と聞けば恥ずかしそうに「ブルーギルばかりですよ!」子供が小さい時は、ほてじゃこばかりでしたのに・・・。モロコ、ほてじゃこ、ブルーギルと周りから食べられるものはどんどん少なくなりますね。自然も経済も変化を感じます。(本田)

・オリンピックの熱い戦いが終わり少し寂しい気持ちになりました。朝起きたら金・銀・銅メダル!!と感動ものでした。プレッシャーとの戦いの中で勝利する力、本当に努力の賜物です!いつも思いますが日本のチームワークは素晴らしいです!私もバドミントンを少しやっていますが、バドミントン人口もさらに増える事と思います。4年後も楽しみです。(藤本)

・VEC関西支部では女性起業家支援のサポーターとして一翼を担っており私も

その一員を務めております。先日愛知県の女性起業家支援の方と情報交換をし、短い時間でしたがお互いに刺激し合えたことは間違いありません。(濱本)

・オリンピックで大活躍された方々の余韻がまだ残っている9月ですが、皆様からも各分野における熱いメッセージを頂きました。年末まであと4ヶ月となりますが引き続きご協力の程よろしくお願い申し上げます。(澤村)

<交流会の予定>

平成28年10月19日(水) 学校法人エール学園

理事長 長谷川 恵一 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



地域の創業、起業教育から地域の未来、 日本の未来を切り拓く!

地域活性化のためには、地域に新たな需要と雇用を生み出す創業は重要です。日本政策金融公庫（以下、「日本公庫」という）では、政策金融機関として、従前より創業支援に力を入れており、平成27年度の創業融資実績（創業前及び創業後1年以内）は26,465企業と、企業数ベースで4年連続の増加となりました。

この背景としては、国や地方公共団体による創業支援策の充実に加えて、各地域における「創業支援ネットワーク」の構築及び活性化大きく作用していると考えます。日本公庫も、その中のプレイヤーのひとつとして参画させていただくことが多く、私の場合、創業支援セミナーなど色々な場で、事業計画の立て方等についてお話させていただく機会をいただいております。受講される方々は、熱意を持って真剣に聞いてくださるので、こちらとしても、やりがいを感じております。

冒頭、日本公庫の創業融資が増加していると述べましたが、諸外国との比較では、「日本の開業率はまだまだ低い」といわれることも少なくありません。そこで、日本公庫では、起業の裾野を広げる活動として、若者層に対する創業マインドの向上を図るべく、長年の創業支援にかかるノウハウを活かした「起業教育」の推進にも力を入れています。

高校生を対象に「ビジネスアイデアの発想方法」「ビジネスプランの立て方」などについて講義を行い、実際にビジネスプランを考えてもらう…高校生にとっては、新しい経験で、最初戸惑ってしまう生徒さんも中にはいますが、若くて柔軟な発想でアイデアを出し、目を輝かせてプランを発表する姿には、地域の未来・日本の未来が少し明るく照らされたような感覚を抱かされ、逆に、こちらが勇気づけられています。

こうした取組を大きいムーブメントとするため、日本公庫では、毎年、「高校生ビジネスプラン・グランプリ」を実施しております。このイベントでは、日本全国の高校生を対象にビジネスプランを募集し、書類審査を通過したファイナリスト10組による最終審査会（プレゼンテーション）で、グランプリ（優勝）を決定します。昨年度は、2,300件を超えるエントリーがあり、競争は年々激しくなっておりますが、「関西圏で初のグランプリを！」という想いで、日々、取り組んでおります。

株式会社日本政策金融公庫 国民生活事業
大阪創業支援センター所長 比留間 大輔



能楽に学ぶ経営学—世阿弥と人材育成—



2015年4月から1年間、能楽を経営学の視点から研究するため、法政大学に客員研究員として滞在しておりました。世阿弥が技能育成についてどのような考え方を持っていたかを、紙面をお借りしてご紹介します。

14世紀半ばに能楽の礎を築いた世阿弥は、『風姿花伝』という有名な書を残しています。この中の「年来稽古条々」という項目では、能楽師のキャリアが年齢に応じて区分（幼年期：7歳より、少年期：12,3歳より、変声期：17,8歳より、青年期：24,5歳より、壮年期：34,5歳より、初老期：44,5歳より、老年期：50有余）され、気を付けるべき点がまとめられています。

幼年期と少年期には、技能を無理やり教え込まず、よいところを伸ばすように工夫して、技能を身に付けることを本人が楽しいと感じるような指導育成方法をすべきとしています。また、どのような舞台に立たせるか、指導者が適切な技能発揮の場を選択することも述べています。変声期には身体の変化のため思うような技能発揮ができないことや、愛らしさを卒業する時期にもなり周囲の見方が変化するため、本人の意欲が低下することをあげます。そして、この時期での対応が一生を決めることになること、将来を見据えた展望をもって乗り切ることの重要性を指摘しています。身体の変化が落ちつく青年期には、若さが周囲からもはやされ高い評価を得たとしても、それが自分の本当の能力と思わず技能を評価する視点を持つことが重要だと述べています。自己の能力を冷静に見極め、研鑽を積み重ねて壮年期を迎えられれば、絶頂期として名声を得ることができるとしています。さらに、初老期からは技能が年齢とともに下り坂になることを自覚し、二番手の能楽師に多くの演目を譲ることに大切さを説いています。そして、老年期に至っては、何もしない以外に方法はないと述べています。

このように世阿弥は、単に稽古を積みよいくとするのではなく、キャリア形成のプロセスに応じた技能育成の課題を明確に指摘し、それに対応すべき指導方法や本人に必要な工夫について述べており、合理的な考え方を持っていたことがわかります。そして、技能の進捗には限りがあり、組織としての能楽の継続のためには、二番手を育成することの重要性も実感しています。能楽を確立した世阿弥は、新しいことを切り開くベンチャースピリットにあふれる人物であると同時に、後継者育成と組織存続に対しても冷静に考察する、経営学的な視座のある人だったと思われます。

京都女子大学 現代社会学部
准教授 西尾久美子

それでも歴史は繰り返すか2

(アベクロノミクスはミッドウェーを経ていよいよインパール作戦突入へ 2020年からみるアベクロノミクス) ~後編

- ① 明治以来、岩崎財閥を発祥とし、国策に寄り添って日本一の財閥にのし上がった三菱東京UFJ銀行が国債購入の特別資格を返上したことである。マイナス金利が続けば、保有国債に大損がでると判断したのだろう。プラザ合意後の不動産融資、そしてその後の大蔵省指導による不良債権の償却、そして国際の大量購入と常に国策に殉じてきた三菱がついに国策にNOを付き付けたのである。ついに2020年9月の日銀金融決定会合で異次元緩和の効果を総括すると発表。日銀のこの思わぬ発言に市場も動揺し、長期金利も約0.3%と4ヵ月ぶりに反転した。そしてその日に財務相・日銀総裁会談発表。財政と金融の組み合わせ政策の相乗効果を狙った演出に懸命である。このままズルズルと政府に押し切られ、異次元緩和の手伝いをされていくのか。黒田総裁としては、幕末の徳川慶喜の心境なのだろう。この3年、安倍総理との一体感を演出してきたが、迷いが生じてきているのだろう。一転、形勢不利と判断した徳川慶喜は上野寛永寺に謹慎生活に入り、ひたすら朝敵の汚名を避け続けた。一瞬、日本経済を復活させた総裁から国債市場を崩壊させて歴史教科書に残る総裁になるのではないかと恐怖心であろう。7月の追加金融緩和も国債購入もマイナス金利も現状に止め、6兆のETF購入だけに止めた。安倍総理としては2006年7月の福井総裁の零金利解除という苦い思い出があり、日銀を力づくで押しても金融緩和の拡大路線をとるであろう。
- ② その流れで考えれば、アベノミクスのミッドウェーは、上海株式市場の暴落と原油の急落が始まった2015年の8月~12月がまさにそれだったのでしよう。そして、2016年の英国のEU離脱ショックによる円高が追い打ちをかけた。戦後経済史を振り返れば、為替相場は表向き市場原則言いながら、実は日本市場開放(繊維、鉄鋼、車、半導体、郵貯)と米発の経済ショック(ニクソンショック、プラザ合意、リーマンショック)に連動して円は360円から95円まで切り上げられてきた事が解る。親米政権樹立と米国安全保障への協力(小泉政権時のアミテージ国務長官のブーツオンザグラウンドの要請に対し自衛隊PKO、安倍第二次政権の憲法解釈変更による集団安保法制)によって勝ちえた、つかの間の円安による輸出型大企業の好決算が小泉構造改革景気、アベクロノミクスの実態である。経済構造の実態は何も変わっていないのである。そして次に想定の前提として、思い起こされるのは太平洋戦争でのガダルカナルから始まり、ニューギニア、インパール、硫黄島、沖縄戦と『勇気ある撤退』があればなかったであろう悲惨な敗戦の連続。今の若い人たちはインパールと言うものを知っている人は少ないが太平洋戦争史の中でも無能な将官の為、悲惨な撤退作戦を強いられた戦いであり、私の義理の伯父がそのインパールから奇跡的生還したのが、骸骨の上で寝ながらジャングルを彷徨ったと言う生々しい記憶がある。
- 今の経済に転じれば副作用も考慮せず、なりふり構わず日銀に突進作戦を取らせ、財務省には同期三人を次官に据え、コントロールし易くし(5年の赤字国債の立法不要化、低金利の内に前倒発行をどんどん進める等)成長、成長とひたすら精神論で国民をかき回し、異次元金融緩和に限界論が出だすと28兆の経済対策という財政出動に再び賭ける。金融緩和+財政出動戦略に頼る安倍政権はミッドウェー以降の戦い方を彷彿とさせる。

2016年4月米財務省は明確に日本の為替政策を監視すると発表。

アベクロノミクスは100円前後の相場で苦しい戦いが予測される。確かに、日本は銃弾・テロ事件もなく、大型企業の倒産もなく、街中に失業者が溢れていることもなく、一見静かな経済大国の様相を呈しているが、ペリー浦賀来航から太平洋戦争敗戦まで87年、戦後GHQ支配による民主化から75年(2020年)時代は静かに大きなうねりを伴って動き出そうとしている。

バブル経済崩壊後30年、赤字国債と低金利(企業所有>個人金融所得)に頼った余剰幻想経済運営は終焉し(日本人の成長経済依存症の性格から残り3~4年では今までの政策を否定するような転換は200%期待できない)高金利時代と小泉進次郎のような若い政治家と若き官僚への思い切った交替を待たないと構造改革はできないであろう。奇しくも、天皇陛下の生前退位がマスコミを賑わせかけている。

(2016年8月第二稿記)

大阪ベンチャー倶楽部代表 不動産鑑定士兼日本生産性本部認定経営コンサルタント 山口 孜

欧米のネットワークと日本のご縁

ベンチャー企業を成功させた方々軒並みに、誰かの人的支援のお蔭だと述べている事は洋の東西を問わないことである。しかしこの人的支援の仕方が欧米と日本では少し違うように思う。欧米人は「ネットワーク」という言葉をよく使い、仕事の上での人脈づくりに極めて熱心だった。ネットワークこそビジネスをする上での重要な武器で、その考え方は、①「あの方とつき合えば儲かる、あの方とつき合うと損する」と損得が先にたつ、②「効率的に人脈をつくろう」と個人が能動的、積極的行動を興す、③「目に見える物理的なつながりばかりみて、その裏にある“人の計らい”を超えたこと」に注目しない、④「あくまでも自分の頭で考えたことで、自分がすべての主人公になっている」。要するに自分から行動を起こし短期間に極めて効率的に人脈作りを行うのがネットワークだった。一方で日本人がよく口に

	ご縁	ネットワーク
地域	東洋	西洋
発想の源泉	ハート、温かみ	頭中心、物理的
考え方	上から頂戴する、感謝	損得を優先
範囲	見えない世界の働きも含む	見える世界の人脈中心
態度	受動的	能動的
意図	計らわずして	個人的な計らいによる

する「ご縁」とは①「自分で意図的に結びつけたのではなく、何かサムシング・グレートの見えない力」により、②「あの方とつき合えば得するとか、あの方とつき合えば損する」などあまり損得勘定はなく、③「自分が積極的に行動するものでなく、待っていれば」それこそ「何かのご縁で」頂戴したものと受動的に考え、④「ネットワークは頭で考え物理的なものとすれば、ご縁はむしろハートの働き」によりソフトで温かみのあるものと言える。ご縁とネットワークを比較すると左記の表のようになる。

この両者の違いはビジネスに於いて決定的な違いをもたらすことがある。それは欧米人が個人の計らいによる“つながり”や人脈づくりがあることはもちろんよく理解している。

しかし日本人が考える「ご縁」には「全く想定外の個人の計らいを超えたミラクル的なことが、計らわずして誰かが与えてくれる」ことがあることは彼らには分かっていない。なぜこのご縁が我々ビジネスパーソンにとってかけがえのないものかといえば、ビジネスで問題が起きて困り抜いたときに、一所懸命努力を続けていると思わぬときに「ご縁のミラクル」が繋がり、問題が解決される不思議な力があるからで、これが日本人のトレードシットであると思う。

太成学院大学経営学部長 釣島 平三郎

~VEC関西より~

- 我が国は春の4,5,6月の梅雨に入る前と10,11月半ばまでが一番いい季節です。今、近くの山に登ると自然がいっぱいあり時には鹿や猿に遭遇することがあります。里に下りてくるとサウナバスに飛び込みそのあとのビールは至福の時間です。ベンチャーには気分転換も重要な仕事です。(本田)
- 何十年かぶりに昔の職場仲間、先輩の方々とおB会をしました。場所は当時よく行った店で、今現在もあり懐かしかったです！宮崎県在住の同期がいつも声掛けしてくれて感謝感謝です。当時の写真と現在の写真を並べてアルバムにしてくれるの事！嬉しいような、怖いような(笑)。楽しいひと時を過ごすことができました。(藤本)
- 厳しい夏の日差しから最近随分過ごしやすくなりました。夏から庭の成長著しく伸びきた木々の枝・葉の剪定を友人としました。お互い汗だくで大変でしたがその分庭はすっきりと綺麗になり、ひと段落です。しかし庭には

無花果の木があり、その熟した美味しそうな果実を頂くのに私と鳥とどちらが早いかな。庭を見てほっとする時間ありません。(濱本)

- 今月号もご寄稿者の専門的な視野から示唆を頂きお礼申し上げます。皆様も日常業務や生活の何かヒントにして頂けましたら有難く存じます。今年も残り3ヵ月となりましたが来年はどのようなご計画でしょうか。来年は酉(とり)ですので明け方一番に鳴く鳥のため縁起が良い年とのことです。(澤村)

<交流会の予定>

平成28年11月14日(月) Aniwo CEO 寺田 彼日 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



「創業者、小規模事業者の傍で歩む決意」

平成28年3月に、22年間勤務した政府系金融機関を退職し、中小企業診断士として、独立開業しました。VEC様には在職中から大変お世話になりました。今回、てんこもりの誌面で近況報告の場をいただき、改めて感謝いたします。

小さい建設業を営む家で生まれ育った私は、就職の際、小企業の支援を天職にしようと思い、精一杯業務に邁進しました。特に創業支援の分野ではVEC様はじめ沢山の連携機関の方と協働して、沢山の起業家を支援することが出来ました。

転職は、父の秘めたる想いを知ったことです。安定した会社に息子が就職したことに安心しつつも、「大永」という屋号への未練があると、母から伝え聞き、自身が起業して屋号を引き継ぐことで、最後の親孝行が出来ると考え、一念発起しました。

創業者や小企業に一番近いところで経営相談に従事したいと思い、4月以降大阪府よろず支援拠点のコーディネーター、大阪商工会議所の金融専門相談員、大阪産業創造館のあきない経営サポーターとして経営相談に従事するほか、各地の商工会・商工会議所での創業や資金繰りをテーマとしたセミナーでの講演を行い、忙しくも充実した日々を過ごしております。

経営相談で、沢山の経営者の方と話をし気づいたことは、「社長は孤独である」ということです。販売促進、資金繰り、事業承継などなど、街の社長には考えなくてはならない問題が山積みですが、これらのことを、気軽に話できる人が社長の周りにおらず、一人で悩んでおられるケースが多いと感じます。

「聞いてもらえてよかった」「話をして頭がすっきりした」など、まず話すことで、少しでも不安を解消して、前向きに経営に取り組んでもらえる雰囲気や、相談所で作っていきたいと思います。そのためには、専門的な知識を蓄積するだけでなく、「傾聴力」に磨きをかける必要があると考えています。

もう一点は、公的な経営相談のサービスが、創業者や小企業の方に意外と知られていないということです。これはてんこもり読者の皆様にも周知のご協力をいただけないかとお願いいたします。創業期に無料の公的相談を受けることで、安心して経営に取り組み、商売を軌道に乗せるスピードが早まります。

皆様と協働して、近畿の中小企業を支援してまいりたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

大永コンサルティング 永井俊二（中小企業診断士、1級販売士）

～貧乏神は幸せを運ぶ神、その神のいる家で育った誇り～

私が生まれたのは、京都府宮津市の丹後由良。日本三景の天橋立から少し京都寄り、海は遠浅で海水浴に適していることから京都の保養地として、別荘や旅館がたくさん建っていたが、私の家も、まわりの家も貧乏な時代であったと記憶しています。とくに冬になると暗くて、集落全体が冬眠しているように静まりかえってました。

祖母は、その現状をなんとかしようと考えたのか、女性の社会的地位が低い時代にもかかわらず、旅館組合と連携して温泉を掘る工事と湧いてくるであろうと思ったお湯で娯楽場の建設まで行っていました。

掘った井戸からは、温度の低い冷泉であったため事業は失敗に終わったが、今日で言えば社会起業家であったと思います。そして、両親のところには毎晩のように地域の人が相談にやってきて、風呂に入れたり、食事を提供したり、仕事を紹介したりなどしていました。自分たちの家も裕福ではないのに他人の世話などを優先するのに私は疑問を持ち始め、両親に「うちの家には貧乏神がいる」と言った場面を今でも脳裏に焼き付けています。

その後の高度成長、石油ショックなど、物があることが幸せという価値観の時代に、私は両親に「大人になったら、錦鯉が泳ぐような大きな家に住みたい」と話しました。

そして、高校進学後に書店で手に取った松下幸之助の本にはまり、教科書はほとんど読まず関連本を読みあさっていました。本には「商売はお金儲けだけでは駄目、社会に貢献することが必要」と書かれていて、それが2001年大日本スクリーン製造(株)[現(株)SCREENホールディングス]の社内ベンチャー制度の第一号で、オフィス用品などを販売する会社を立ち上げ、社会貢献も事業として取り組みました。ビジネスの現実厳しく、創業から二年間で六千万円の赤字となり、自分の給料も貰えないどん底状態に陥ってしまいました。しかし、そんななかでもカンボジアの小学校建設、日本中から文房具を寄贈する活動、障がい者スポーツ大会に協賛など身の丈に合わない活動に、周囲からは赤字の会社がすることではないと言われました。それでも活動を継続すると大きく流れが変わりはじめ、顔も名前も知らない人たちが、「どうせ買うなら社会貢献で頑張っている会社から」と口コミの市民活動が生まれ、新社屋を建てる会社からは、新調するオフィス家具一式、三千万円の受注を頂きました。オフィス用品は価格競争の時代に入っても、本に書かれていた「商売の基本」を貫くことが企業にとって大切であると確信しています。そして、天国の家族に「あの神は、貧乏だけではなく、幸せを運ぶ神だった」と伝えたいと思っています。

株式会社 カスタネット
代表取締役社長・社会貢献室長
植木 力(うえき ちから)



- ・本社：京都市南区東九条西河辺町33
- ・設立：平成13年1月（創業・平成13年4月、平成18年6月 社会貢献室を設置）
- ・資本金：1千万円
- ・事業内容：オフィス家具、オフィス消耗品、工業用作業品等取扱、ソーシャルビジネス。
- ・社会貢献室顧問：堀田 力 ほか2名

～VEC発刊の「ベンチャー白書2016」発売～

我が国唯一の公式ベンチャー統計&動向分析として今年も下記のスケジュールで発刊。ベンチャーに関心のある方必携です！

お申込みはVECにて受付中。 * 東京本部 TEL 03-3230-8902 * 関西支部 TEL 06-6263-0366

<発行スケジュール>

	発行日	媒体	定価	発行場所
電子版	2016年10月3日	PDF	5,400円	・VECのHP ・DLマーケット
ベンチャーニュース	2016年10月31日	PDF	無料	・VECのHP
冊子版	2016年11月28日	紙製本	5,400円	・全国の書店 ・Amazon、楽天ブックス等のオンライン書店

～ATACが創立25周年～

◎ATAC (Advanced Technologist Activation Center) は 一財) 大阪科学技術センターの創立30周年事業の一つとして1991年に設立され、今日まで中堅中小企業の技術支援を中心とした集団としてご活躍中。メンバーは民間企業を退職された豊富な経験やノウハウを有する技術OBや事業経営者、管理職OBによって構成されています。またコンサルティングの外にも講演会、セミナー、社長懇話会、見学会、「ATAC News」の発刊、補助金の申請書作成サポート等幅広い活動で企業や社会に貢献。創立以来のコンサルティング件数は累計で800件、220社を超えておられる。

◎9月29日(木)には25周年を記念した講演会も開催され会場は超満員の盛況となりました。

記念講演会の講師 ・白光株式会社 代表取締役 吉村 加代子 氏 ・演題 「強みを活かす ～違いを超えた人財育成」

同社は「はんだ付関連機器」のメーカーとして世界60カ国に輸出され、ホビーから宇宙開発まで幅広く展開中。

・名古屋大学教授 天野 浩 氏 ・演題 「世界を照らすLED」

2014年にノーベル物理学賞を受賞され、現在は名古屋大学において高効率パワー半導体など新たな省エネルギー及創エネルギーデバイスの創成に向けた技術開発を進めている。

◎25周年記念誌 ～ATAC運営委員長 梶原 孝生氏の寄稿文からその一部をご紹介します～

「ATACと同じように定年退職者が第2の人生を中小企業支援に生きがいを感じて活動している組織も全国に数多く存在します。」

(中略)「数年やって飽きた、それほど期待している小遣い稼ぎにならなかった、歳を取ったので沢山だといった声が聞こえてきます。それは定年後の暇つぶしの気分でいたからです。ATACはそこが違います。まず第一に今まで受けた社会からの色々な恩恵に対するご恩返しで、いかにこれからの人生を社会貢献に尽くそうかという覚悟があるかです。ATACは先ずここに使命感をもって中小企業支援にあたってきました。ATACに新たに加入したい方々にも、最初に求めるのがこのことで、その覚悟を確認してから入会をしてもらってきました」(以下略)

ATACの連絡先： 大阪市西区鞠本町1-8-4

一財) 大阪科学技術センター内 TEL 06-6443-5323

記・一財) VEC 関西支部 事務局



光輝く島「スリランカ」の超最新情報

10年以上に亘る東南アジアの経済文化視察もほぼ行きつくし、今回は南アジアに位置するスリランカ(元セイロン)に初めて挑戦した。コロンボ・バンダナイケ空港を降り立つと空港内の特別室へ案内され、サプライズが始まった。白バイとパトカーに囲まれ恒常的に渋滞する道路を白バイ先導でサイレンを鳴らしながら他の車を左右に誘導いただき、運転手の巧みなドライバーテクニックもあり、あっという間に、今回のスリランカ経済文化視察に特別の設営と格別のご配慮をいただいた、スリランカ人のラッド社長事務所に着。事務所入口でも民族衣装に着飾った民族舞踊に出迎えられる歓迎ぶりであった。

初日はスリランカと日本の友好に役立てるため、第一回の日本・京都案内セミナーを開催、約20名のスリランカの方々に日本・京都案内を実施、理解を深められたと考えます。翌日、ピンナワラの約50頭の象を保護する孤児院と水遊びを見学後、ラプナプーラにあるラッド社長が10ヶ所も所有する宝石の鉱山を見学、実技も体験し採掘から研磨作業まで見学することが出来ました。3日目は予約済みのジェトロスリランカ事務所を訪問し、「スリランカのビジネス環境と日系企業動向」について詳しく拝聴出来ました。スリランカを要約しますと以下のとおりです。

1. スリランカの概況

①国名 スリランカ民主社会主義共和国 ②人口 2,096万人(2015年推計) ③面積 65,610km²(北海道の約0.8倍) ④言語 「公用語」シンハラ語・タミル語 「連結語」英語 ⑤宗教 仏教徒(70%) ヒンドゥー教徒(10%) イスラム教徒(9%) その他(11%) ⑥気候 熱帯 ⑦首都 スリジャヤワルダナプラコッテ(大統領府はコロンボ) ⑧日系企業 約130社(2016年7月時点) ⑨在留邦人1,015人(2015年10月時点)

2. 日本との関係

①1952年サンフランシスコ平和条約発効を機に国交樹立 ②ODAでは道路等のインフラ整備、コロンボ空港の拡張、下水道整備、メガポリスプランの協力等に貢献している。

3. 経済状況(東南アジア各国と比較し、優れている項目は下記のとおり2015年現在)

①一人当たりGDP 3,768(米ドル) ②識字率93% ③貧困率3.46 ④自動車保有台数 46(台/千人) 日本車が圧倒的に多い 関税300%と高い

4. 主要経済指標(上記以外2015年)

①実質GDP成長率 4.8%(2015年) ②貿易収支 ▲8,430百万ドル ③経常収支 ▲2,000百万ドル ④政策金利 6.0% ⑤工場労働者の平均月額賃金約143ドル

5. スリランカを訪問する観光客推移(前年比) 2015年 全体約180万人 インド(30%) 中国(68%) 英国・ドイツ(12%) 米国(20%) 日本(0.6%)

6. 海外直接投資動向(百万ドル) 香港188 中国 151 モーリシャス 139 オランダ 90 日本8(17位)

7. 今後の課題等 交通渋滞の解消のための道路等のインフラ整備 慢性的な歳入不足と輸入が多く貿易赤字の拡大等財政改革も含めた構造改革が必要。しかし、2009年に内戦も終結し、現在は高層ビルの建設、370mのテレビ塔の建設、コロンボ港の拡張、メガポリス計画の推進等活気溢れる国になりつつある。又、ポルトガル、オランダ、英国の影響を受け、古い欧風の建物が多く、治安も良い落ち着いた国との印象を受けた。国公立の大学までが学費が無料で教育を受けている人口のすそ野が広く、英語が話せる人材が多い。南アジアでは珍しい仏教国で男女同等に社会進出が進んでおり気質は穏やかで、笑顔がある。今回特にお伝えしたい日本人あまり知らない歴史があります。J.R.ジャワルデナ氏(当時大蔵大臣、後の大統領)が1951年9月6日サンフランシスコにおける日本との平和条約締結調印会議で行ったスピーチ等を保管した会館の見学です。当時のソ連の修正条項に反対し、「憎しみは憎むことによって消えず愛することによってなくなる」とのブッタの言葉を引用し、日本を自由な国にし、制約もつけず、援助を求めやすくし、賠償金も日本から取り立てないよう平和と繁栄に前進するよう日本の復活を望み訴えたスピーチにより、今日の日本があるように感じました。水深15mのコロンボ港を有するスリランカは大型船も寄港でき、インド、中東、東アフリカ、東南アジアまで広範囲にカバー出来る物流ハブ港として2015年年間コンテナ取扱量520万TEUと年間伸び率5.9%、又、比較的低賃金の労働力もあり、今後、港湾立国として積極的に世界にPRすれば益々発展していく可能性を秘めている国と考えます。

今回のスリランカ経済文化視察に際し、ジェトロ菅原様とノジリインターナショナルラッド社長様に改めて謝意を表します。

一般社団法人ベストビジネスセンター 代表理事 山下 太一郎

～VEC関西より～

・東京出張から我が家へ帰る途中風に乗って金木犀の香りがふっと鼻をかすめました。ああ、もう、秋だなあ。家に到着すると我が家の金木犀も金色の花を一杯つけて匂っていました。これから来る寒い冬に向けて自然のご褒美なのかな。また明日からもベンチャーサポートに、経営に頑張ろう。(本田)

・断舍利をしなればと考えているうちに、部屋の模様替えもしたい!と思っ
てしまえば天保山にある組立家具等で有名なIKEAに行きました。家族連れも
多く結構長い時間でも退屈しないような工夫がされ、楽しかったです!お目
当ての家具も購入し四苦八苦しなながら組立、出来上がったときの満足感
♪・DIYにはまりそうです!(藤本)

・10/4 EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー2016ジャパン東海・北陸大会
が名古屋にて開催され参加いたしました。東海地方の多くの経営者の方々

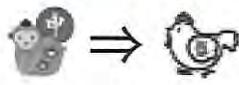
ご紹介して頂き、又2015年同大会の日本代表としてVEC評議員でおられる
(株)東海メディカルプロダクツ 筒井会長様ともお会いでき大変充実した
時間を過ごすことができました。これからも中部地区と連携を拡大してい
きたいと思っております。(濱本)

・「世の為、人の為」をモットーに経営や組織運営をなされている方々からの
メッセージは改めて創業や事業継続に大事な要素のひとつとして拝読いた
しました。山下氏からのスリランカ視察報告の中でJ.R.ジャワルデナ氏の演説
が戦後日本の処遇を決めるのに大きな要因であったことを知り、歴史を再認
識いたしました。(澤村)

<交流会の予定>

例年どおり12月、1月の開催はございません。

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293



2016 VEC関西 10大ニュース



一年が経つのは早いもので、もう10大ニュースに悩まされる季節になりました。今年も交流会は9回開催し、毎回40人前後のご参加を戴いています。VEC関西はアーリーなベンチャーの育成と情報交換ネットワークづくりを主体に活動してまいりました。

1. ご愛読賜わっている、この「てんこもり」もこの12月号で147号、発刊12年を超えました。まだまだ頑張るつもりですので応援をお願い致します。
2. VEC創業当時より支援賜わっていますフジキン小川会長が春の叙勲、旭日双光章を受賞されました。心より祝福するとともに益々のご活躍をお祈りいたします。
3. VEC東京本部、9月に事務所を新宿から九段下に移転しました。なお一層のご活躍を祈ります。気軽にお立ち寄りください。
4. VEC関西の濱本さん主宰女子有志の会「プレミアムクラブ」は中部地区の女性ベンチャーとも連携して、一段と発展を目指しています。
5. 今年もベンチャー白書発刊。電子版、冊子版も定価5,400円税込み、ご購入お願い致します。
6. 近畿経済産業局の女性活躍支援「LED関西」にVECもサポーターとして参画。2回で各10名のファイナリストのうち2名の女性経営者を応援しています。(金城、光畑 様)
7. 関西VECでは長年、ベンチャーの育成に草の根的な支援をしてこられた方に感謝状を差し上げ、感謝の意を表わすことにいたしました。
8. やはりこれからは海外で起業されている方々との連携が必要とのコンセプトで台湾やシリコンバレー、スリランカ、イスラエルなどでご活躍の諸氏にお話し頂きました。
9. フレッシュな大学生にもベンチャーのことも知って頂くため、大阪府内の大学に一日講師を紹介しました。
10. 関西VECと特別ご縁の深い諸氏の講演会に交流会メンバーとともに参加、サポートさせていただきました。(子供向け整理整頓、笑いのセミナー、高野山大学講演、スリランカセミナー など)

(番外) 今、恥かしながら、光畑先生の「らくらくピアノ」に澤村事務局長とともにハマっています。そのうち成果のほどをご披露したいと思っています。その際はご欠席されないようにお願いします。

VEC関西支部長 本田 英行

今年を振り返って

2016年はどんな年だったでしょうか。振り返ってみますと、1月、「マイナス金利」の導入決定。2月、シャープが鴻海の傘下入りを決定。4月、平成28年熊本地震(本震)発生。5月、三菱自動車日産の傘下、伊勢志摩サミットが開催、オバマ大統領が広島訪問。6月、英国のEU離脱是非を問う国民投票で離脱派が勝利。7月、東京都知事選挙、小池都知事誕生。8月、リオデジャネイロオリンピックが開催。10月、大隅良典氏がノーベル生理学・医学賞を受賞。11月、アメリカ大統領選でトランプ氏の勝利、韓国朴槿恵大統領の友人女性実業家国政介入疑惑などが、主な出来事でした。

本当に色々大きな出来事があった年でしたが、その中でも大方の予想を覆したショックな出来事が、「英国のEU離脱」と「アメリカ大統領選でのトランプ氏の勝利」です。

英国のEU離脱是非を問う国民投票は、ほとんどの予測は残留だったのですが、EU参加国が条約により独自の金融政策を取れないことや、EU域内での労働者の移動が保証されていることによる移民・難民の問題が背景にあり、国民の意思は離脱となりました。このことは、スーパナショナリズム(超国家主義)の否定や、英国議会の復権を意味するものかも知れません。

トランプ氏の大統領選では、アメリカはもともと白人が建てた国なのに、中南米からの移民が増え、仕事を奪われているという白人労働者たちの不満と不法移民に抱く危機意識があったようです。

アメリカ人は一般的にエスタブリッシュメントの政治家を嫌うという事情があり、ヒラリー氏が予想以上に嫌われたということです。また、中立・公正なはずのマスコミが、トランプ氏の過激な発言とヒラリー氏嫌いを取り上げて、中傷合戦と醜聞に終始した「史上最悪」と呼ばれる大統領選となりました。

フランスの歴史人口学者エマニュエル・トッド氏は、英国のEU離脱とトランプ現象を「グローバル化への疲れだ」と指摘しています。グローバル化が行き過ぎると、人口のわずか1%の人々による特権化が起き、そうしたグローバルイズムにはこれ以上耐えることができないという大衆の反発であり、「民主主義の復活」と分類することができる。それを高学歴のエリートと呼ばれるような人たちが、「ポピュリズム」と言っていると述べています。

「ポピュリズム」「保護主義」今年の潮流はグローバル化への抵抗でした。来年はこのトレンドを受け、世界の政治・経済が「想定外」のカオスになるかも知れません。

はしもと経営研究所 中小企業診断士 MBA 橋本豊嗣
(独)中小機構 近畿本部 チーフアドバイザー

★ 次回 VEC新年交流会のご案内 (12月、1月の交流会開催はございません)

・平成29年2月7日(火)午後6時から

場所: 綿業会館

講師: 大阪大学大学院研究科知能・機能創成工学 専攻教授 浅田 稔 様

演題: 「これからの人工知能・ロボットのカギは共生」

起業と21世紀社会

この5月、NHKスペシャル「天使か悪魔か 羽生善治 人工知能を探る」の中で、大手日本企業で働く志のある若手従業員が、企業内での研究・開発ではあき足らず、企業を飛び出して自分の志を実現することを選ぶいくつかの事例が紹介されていた。番組の主旨は、そうした若手が企業内では次々と育っており、次世代の日本は彼らが担うと予測していた。視聴者のわたしも同感の思いや重なるものを感じている。

在阪都市銀行の国際部門に永らく勤めた経験と50歳定年後に5年程足を入れた同じ銀行系列のベンチャーキャピタル（投資組合管理部長と常勤監査役）で体得した勘と実経験から、また兼任した神戸学院大学アジア太平洋研究センター（使用言語は、日本語、英語）研究員として内外研究者との交流、別府にある立命館アジア太平洋大学での教鞭、そして十数年勤務する太成学院大学の留学生やゼミ生との触れ合いなどから、接する多くの若者は志を持ち、夢を語りその先に孫正義やビルゲイツ、最近ではアリババの創業者のような起業を展望している。生々しい言い方をすれば、「大富豪」が最終目的のようにも見える。日本人若手起業家はどうか。志の彼方には外国人と同じようにユニクロ・柳井正や日本電産・永守重信があるのか。起業成功のその先に、かつての松下幸之助や本田宗一郎の実践した豊かな経済社会・経済を基盤とした安心安全な世の中造りはあるのだろうか。

20世紀は資本主義と共産主義の両陣営に大きく分かれていた。共産主義はソビエト社会主義連邦に始まり1989年ベルリンの壁崩壊と1991年のソ連崩壊で終焉した。筆者が勤務したベトナムでもまた近隣に駐在したキューバでも長い社会主義・共産主義の実験の結果は、「人々は、支持した体制下目指した豊かさ（飢餓や空腹ではない、食べていける世界）が、結局実現できなかった。」に尽きる。

*参考図書：「貧困の克服」アマルティア・セン（ノーベル経済学賞）、「文明の衝突」サミュエル・ハンチントン

若手が担う21世紀はどうなるのだろうか。日本社会は、失われた〇〇年から充分抜け出せない下、少子高齢化が日々進む。フランスの経済学者トマ・ピケティは、世界各国の経済社会が格差社会に進んでいることを提示した。その解決方法は、政府による所得再分配策（高所得者へ高い税金を負担してもらう）である。そうした社会で、果たして志や気力ある“企業家”は輩出するのだろうか。

*参考図書：「歴史の終わり」F.フクシマ、「大国の攻防」P.ケネディ 以上

太成学院大学教授 関戸恒昭



VECLレポーターが行く!!

ママが変われば子どもも変わる!子どもと一緒にがんばり! ~整理収納のキホン~
株式会社ベイルインテリア 金城貞美代表

10月12日（水）大阪市城東区子育てサロン「ブッチクラブ」にて（株）ベイルインテリア 金城代表が講演をされました。当日は0歳～4歳就園前25組の親子が参加され金城代表のお話が聞きたいママさんで大盛況でした。金城代表は、日々お母さんが困っておられるお子さんのおもちゃ、洋服などのお片付けを判りやすく講義され「お子さんと一緒にがんばり」をテーマに整理収納を楽しみながら親しんでいくというお話でした。

講演終了後もお母さんからの質問も多く、参加された皆さんの関心の多さが読み取ることができました。

今後、金城代表におかれましても新しい展開の整理収納のキックオフとしてご成功をお祈り致します。



レポート：VEC関西支部事務局 濱本

「自らの頭で考え、自らの脚で立つ事の大切さ」

数年前から経済格差に関する名著が次々に出版されています。世界的に有名になったトマ・ピケティ氏の「21世紀の資本」を始め米国の大学教授A. コーエン氏の「大格差」そして日本でも富山氏（元産業再生機構代表）等が名著を次々と発表していますが、それらの本を読んで強く感じ、そして不安にも思っている事を述べてみます。

格差の問題は経済格差の他に地域格差や最近では年代格差など様々な格差が表面化しているが、私が一番懸念しているのは倫理観格差（筆者の造語）である。身辺を見渡して強く感ずるのは真面目な経営者、企業、個人などは時代や環境がどうあれ、その生き方は増々真面目、真摯な姿勢となり、一方ではグレー化、ブラック化する企業も多く、その格差は急速に広がる一方である。ブラックの代表としては先般、大手居酒屋チェーン店の新卒女子社員への異常に過酷な労働条件の中での自殺に対して企業側に高額な賠償判決が出ましたが、個人問題では若い両親の赤ちゃんへの虐待死、又は高齢の両親の死亡を隠し両親の年金を長期に亘り不正受給する人、そして関東方面でメディアで有名になった保育所新設に騒がしいとの理由で反対する住民など・・・

経験則上メディアに出現するのは一部のみで多くは潜在化していると言う事実を愕然とした思いで実感しています。数えあげれば私の周辺だけでも数々の事例が出てきます。

先月NHKのTV番組でもこの問題を長時間に亘り取り上げ論じていましたが、その中でNHKは「不寛容社会」の到来と言う表現を使っていますが、真に倫理観格差の問題でした。私の経験則上、平成元年のバブル崩壊の時もそうでした（NHKは平成元年11月3時間×5夜連続、計15時間）がNHKがドキュメンタリー仕様で長時間に亘り取り上げる時は、その事柄事体が相当に深刻な状態に陥っている事です。

話しがそれるが、東日本大震災の折に元東京都知事の石原氏が、これは天罰であると発言して世間の反感をかいましたが、同氏の思いはここ数年来、私が感じている事を同氏の言葉で表現したに過ぎない事だと直感的に感じていました。そして知事退任後、直近の一年間だけでも10冊以上の出版（殆んど警世書）しておりそれらを読むと私の思いが間違いでなかった事が良く解ります。そしてその様な問題の起因として今の日本人が自らの頭で考え自らの脚で立つ事を忘れ去っていると言う事が良く理解できます。残念ながらこの事柄は一朝一夕で解決できる問題ではありません。論語に一年の計を因るは穀を植えよ！十年の計を因るは木を植えよ！百年の計を因るは人を育てよ！真に教育の問題でありこの問題の解決には相当の覚悟と年月を以って取組む必要があります。

ブランメゾン株式会社 代表取締役 白屋 健二

～VEC関西より～

・今年も年賀状の文面に頭を悩ます季節になりました。交流会では様々な分野でご活躍の方々から興味深いお話を賜わり、ご参加いただく方も毎回40名前後で二次会まで盛り上がる時もあります。そのうち交流からビジネスまで発展することを願っています。次回は2月ですのご期待下さい。
(本田)

・最近の野菜高騰!!主婦としては困ります。今まで捨てていたような部分でもモットイナイと工夫をして使うようになったのは良かったと思いますが…キャベツ、白菜の芯とかは酢漬けにしたらメッチャ美味しいです。これからは鍋の季節（我が家は年中鍋の季節ですが(笑)）早く値段が下がってほしいものです。今年も有難うございました。来年も宜しく願い申し上げます。
(藤本)

・先月の初旬、以前よりプライベートでも親しくさせて頂いている（株）アトラステクノサービス 副社長所有の田んぼの稲刈りのお手伝いに行きました。

到着すると既に副社長を中心とした泥まみれの女性陣がテキパキと作業されており、稲刈りデビューの私は刈った稲の天日干し作業が一杯一杯でした。しかし全ての作業が終わり夕日に照らされて綺麗に並んだ稲木干しの風景はほのぼのとした「日本の秋」を感じました。今後ともVECを通じてのお付き合いを大切にしていきたいと思っております。
(濱本)

・今年のVEC活動集大成をVEC関西10大ニュースに要約いたしました。まだまだ不十分な点もあるかと思いますが引き続き少しでもお役に立つVECを目指して行動して参ります。来年も何卒よろしく願い申し上げます。
(澤村)

<交流会の予定> 詳細は一面に掲載しております。
新年交流会 平成29年2月7日（火）午後6時から。
※12月、1月の交流会開催はございません。

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293